

第七百四十七條

債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

註疏 假差押ノ理由消滅スルトハ債務者ニ於テ已ニ辯濟ヲ終リタル場合ノ如キ或ハ又債權者ノ主張スル權利ノ消滅シタルトキノ如キ場合ヲ云ヒ又事情ノ變更トハ假差押ヲ受クルニ至リタル債權ニ變動ヲ生シタルトキヲ云フ此ノ如キ場合ニ於テハ已ニ假差押ノ認可後ト雖モ其主張ヲ明ラカニシテ之レガ取消又ハ變更ヲ申立ツルヲ得ルモノト爲セリ此理由ハ假差押ナルモノハ主タル債權ノ反影タルニ過ギザルモノナルガ故其假差押ハ已ニ認可セラル、ニ至リタリトスルモ主タル債權ニシテ動搖スルニ至ルトキハ假差押モ亦之レト相伴フテ動搖セザル可ラザカルハ當然ノ結果ナレバナリ又裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル處ノ保證ヲ提供シテ假差押ヲ免ガル、コトノ申立ヲ爲シ得ルコトノ如キモ要スルニ債權者ガ假差押ヲ爲スノ目的即チ執行保全ノ爲メニ保證ヲ提供スルコトニ係ルガ故假差押ヲ命ズルノ目的ヲ貫クニ至テハ同一ニシテ唯其方法ヲ改メントスルニ過ギザルガ

故假差押ノ認可後ニ至ルモ之レガ申立ヲ爲シ得ベキコトノ權能ヲ債務者ニ向テ與ヘタルナリ

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可キモノニシテ而シテ之レガ管轄ハ本案ガ繫屬セザルトキニ於テハ假差押ヲ命シタル裁判所ニ於テ之レガ裁判ヲ爲シ又已ニ本案ガ繫屬スル場合ニ於テハ本案ノ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲ス可キコト、定メタリ

第七百四十八條

假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

註疏 假差押ナルモノハ其處分ノ結果ニ於テハ大ニ強制執行ト相異ナルモノアリテ未確定ノ債權ノ爲メニ他日執行ヲ保全スル爲メ之ヲ假リニ行フノ方法タルニ過ギザルガ故彼レ強制執行ノ如ク之ニ因リテ債務者ノ財産ヲ處分シ去ルモノト相比スレバ同日ノ論ニアラザレモ其之レガ執行ヲ爲スニ臨ミテハ債務者ノ意思ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ施行ス可キモノニテ其命令ヲ執行スルニ當リテハ共ニ執達吏ニ之ヲ委シ公力ヲ使用シテ之ヲ爲サシル可カラザルコトナルガ故之ヲ行フノ方法ニ至テハ共ニ同一ノ方法ヲ以テ爲シ得ベキモノ又同一ノ方法ニ因ラザル可カラザルモノ少シト云フ可カラズ故ニ本條以下執行ノ方法ヲ異ニセシムル爲メ特ニ明文ヲ以テ之レガ方法ヲ設ケタルモノヲ除クノ外ハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用シテ之レガ執行ヲ爲サシム可キモノト定メタリ

假差押・假處分

第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債  
務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押ノ命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタル  
ヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

註疏 假差押ノ命令ヲ以テ承繼者ニ及ボサンガ爲メ承繼者ノ爲メ執行文ノ附記ヲ爲サン  
トスルニハ此ノ命令ヲ發シタル後ニ於テ承繼アル場合ニ限り之レガ附記ヲ要スルコト、  
爲セリ故ニ命令ヲ發スル以前ニ於テ定マレル承繼者ハ此ヲ命令ノ支配ヲ受ク可キコト當  
然ニシテ之レヨリ後ニ於テ承繼人タル者アルニ至リ殊ニ之ニ對シテ執行文ノ附記ヲ要ス  
ル次第ナリ

第二項ハ假差押命令ヲ執行シ得ベキ期間ヲ定メタルモノナリ此ノ命令ハ之ヲ申立人タル  
債權者ニ言渡シ若クハ其命令ヲ申立人ニ送達シタルトキヨリ十四日ヲ徒過シ此ノ命令ノ  
執行ヲ怠リタル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ザルモノト定メタリ故ニ債權者ニ於テ假  
差押ヲ實行セントスルニハ其申請ニ付キ命令ヲ受ケタルヨリ遅クモ二週間内ニ於テ之レ  
ガ執行ヲ爲サザル可カラズ若シ十四日ノ期間ヲ徒過シ執行ニ着手セザルニ於テハ假差押  
ノ命令ハ其效力ヲ失ナヒ之ヲ執行シ得ベカラザルニ至ルモノナリ

而シテ此ノ假差押ノコトタル執行保全ノ爲メニ行フコトタルガ故債務者ニ對シ差押命令  
ヲ送達スルノ前即チ債務者ガ未ダ差押ノ命令ヲ知ラザルトキト雖モ亦之ヲ行フヲ得ベキ  
コト、爲セリ蓋シ奸猾ナル債務者ニ臨ンダハ頗ル迅速ニ其差押ヲ實行スルニアラザレバ  
遂ニ執行保全ノ目的ヲ達シ易カラザルガ如キコト之レナシト云フ可カラザレバナリ

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從

ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判  
所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ  
禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價  
證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少  
ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付不相應ナル費用ヲ生ス可キトキ  
ハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執  
達吏ニ命スルコトヲ得

註疏 強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ動産ニ對シテハ先ヅ差押ヲ行フコト、定メタリ而シ

テ此差押ナルモノハ動産ノ種類ニ依リ其方法ヲ異ニシ之ニ對スル規定ヲ爲シタルモノアルガ故此ノ各差押ノ原則ヲ適用シテ假差押ノ執行ヲ爲ス可キコトヲ規定シタルモノナリ即チ假差押ヲ爲ス可キ執行ノ方法ハ動産ニ於テハ各差押ノ原則ニ因リテ之ヲ爲ス可キヲ以テ法律ノ精神トナスモノタルヲ第一項ニ於テ示シタルモノナリ而シテ此ノ原則ヲ適用ス可カラサル場合ハ例外トシテ以下ニ規定スルコト、爲シ此ノ例外ノ規定ナキモノハ凡テ第一項ノ規定アル爲メ各差押ノ原則ニ從ハサル可カラズ

債權ノ假差押ニ付テハ命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所ト爲スト定メタル者ハ即チ其債權ノ多寡ニ係ハラズ又所在地ノ如何ヲ論ゼズ假差押ノ命令ヲ發シタル裁判所之レガ管轄ヲ爲ス可キモノタルコトヲ見ル可キモノニテ債權者ノ申請ニ因リ債務者ガ有スル債權ノ差押ヲ爲スニ付テハ其命令ヲ發シタル處ノ裁判所正當ノ管轄權ヲ有スル者ニテ之ヲ以テ執行裁判所ト定メタルモノナリ故ニ該債權ノ假差押ヲ終了スルニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ニ於テ之レガ管轄ヲ爲シ執行上ニ關スル保護ヲ與ヘザル可カラザルモノタルヲ知ルベシ

債權ノ假差押ニ付テハ裁判所ハ如何ナル命令ヲ下ス可キモノナルヤハ第三項ニ規定シタル處ニシテ第三債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁ズル命令ノミヲ爲スコキモノト定メタリ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁ズルコトアル債務者トハ假差押債權者ヨリ對スル債務者即チ被

假差押者ノコトニテ第三債務者ヨリ云ヘバ債權者ニ當ルモノナリ裁判所ハ第三債務者ニ對シ其債權者タル即チ被假差押債務者ニ向テ其債務ノ支拂ヲ爲スコカラザルコトヲ命令ズルノミヲ以テ假差押ハ茲ニ終了セラレタルモノト爲セリ確定判決ニ因レル強制執行ノ場合ニ付テ之ヲ見ルニ債權ノ差押ヲ爲スルハ裁判所ハ第三債務者ニ對シテハ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁ズ又債務者ニ對シテハ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラザルコトヲ命ズレドモ假差押ノ場合ニ於テハ本條第三項ニ因リ單ニ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁ズル命令ノミヲ以テ足レリトス

又假差押ニ因リ金錢ヲ差押ヘタルトキハ之ヲ供託セザル可カラズ何トナレバ此金錢ハ果シテ債權者ニ於テ之ヲ受領スルノ權利アルヤ否ヤ未確定ノモノニシテ假リニ之レガ差押ヲ爲シタルニ過ギザレバナリ

又假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ノ如キモ一時之ヲ爲スコキモノニアラズ何トナレバ假差押ニ因リ債務者ノ所有權ニ付キ處分ヲ加フルハ甚ダ危險ノコトナルヲ以テナリ然レモ若シ單ニ之ヲ差押ヘ置クガ爲メ著シク價額ノ減少スル場合又或ハ之ヲ貯藏スルニ著シキ費用ヲ要スルトキノ如キハ執行裁判所ハ其申立即チ差押債權者ノ申立ニ因リテ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キコトヲ執達吏ニ命ズルヲ得ルモノト定メタリ

### 第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記

簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

七百九十二

註疏 不動産ニ對スル假差押ハ已ニ差押命令ハ登記簿ニ記入シタルモ其效力ヲ生ズルモノニテ即チ債務者ハ隨意ニ該不動産ヲ動かスヲ得ベキニ至リ執行保全ノ效力ヲ債權者ニ於テ保ツテ得ベキモノタルヲ知ル可キナリ

### 第七百五十二條

假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

註疏 強制管理ナルモノハ不動産ニ關スル特別ノ執行方法ニシテ債務者ヨリ管理及ビ收益ノ權利ヲ強制シ不動産ヨリ生ズル處ノ收益ヲ以テ債權ノ保償ニ供スルノ方法ナリトス故ニ此ノ場合ニ於テハ保全ス可キ債權即チ假差押債權者ガ債務者ニ係リ請求シ得ベキ債權額ニ相當スル金額ニ至ルマデ不動産ニ付キ強制管理ヲ施シ其收入金額ハ之ヲ供託ス可キモノト定メタリ例之バ甲ナル假差押債權者ガ求ムル處ノ債權ノ金額ハ千圓ナリトセンニ乙債務者ニ係リ假差押ノ命令ヲ得テ不動産ノ強制管理ヲ爲シタル場合ニ於テハ其強制管理ノ爲メニ得ベキ不動産ノ收入ハ年々之レガ收入ヲ爲スニ隨テ供託ヲ爲シ債權者ノ請求スル債權額ヲ充タスニ至テ終ルコト、爲サザル可カラズ蓋シ此ノ管理ナルモノハ畢竟債權ヲ保全スルガ爲メニ之ヲ爲スニ外ナラザルガ故其債權ノ額千圓ナルトキハ收益千圓ヲ供託シ終ルニ至テ保全ノ目的ハ之ヲ達シタルモノト爲サザル可カラザルナリ

### 第七百五十三條

船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ビ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

註疏 船舶ニ對シ假差押ヲ爲スニハ之レガ執行ノ當時船舶ノ碇泊スル港ヲ動カシメザルコト即チ該港灣内ニ碇泊セシム可キヲ以テ假差押ノ方法ト爲セリ故ニ彼ノ確定判決ノ效果ニ因レル強制執行ノ如ク種々ノ方法ヲ用ユルコトナク單ニ其出帆ヲ差止ムルヲ以テ假差押ノコト行ハレタルモノト看做ス可キコトナリ然レモ彼ノ船舶登記簿ニ假差押ノ命令ヲ登記セザル可カラザルハ勿論ノコトナリ若シ之レガ記入ヲ爲サザルニ於テハ毫モ假差押ヲ施シタル效果ナク船舶ノ所有ハ隨意ニ動カサル、ニ至ラザル可カラズ故ニ登記簿ニ於テ之レガ記入ヲ爲ス可キハ當然ノコト、云フ可シ

然リ而シテ船舶ノ物タル他ノ不動産不動産ト異ナリ之レガ監守及ビ保存ニ於テ大ニ其趣ヲ異ニセザル可カラザルモノアルガ故裁判所ニ於テハ債權者ノ申立ニ因リ之レガ監守及ビ保存ニ必要ナル處分ヲ爲サザル可カラズ其方法ニ至テハ或ハ風災ヲ避クルガ爲メニ安全ノ場所ニ碇ヲ投ズルガ如キ或ハ浸水ヲ防ク爲メ腐蝕ヲ遮ルノ方法ヲ設クルガ如キ凡テ其監守ト保存トニ於テ必要ナリト思量スル方法ニ於テハ裁判所ニ於テ債權者ノ申立ニ因リテ之レガ處分ヲ爲スコトヲ得ベキモノナリ

假差押及假處分

七百九十三

**第七百五十四條** 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ  
假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

註疏 第一項ニ於テハ債務者ノ所爲ヨリシテ之ヲ取消ス可キ場合ヲ規定シタリ即チ假差押命令ニハ常ニ其債權者ヨリ請求シ得ベキ幾何額ノ債權ニ付キ債務者某ノ動産若クハ不動産ニ付キ假差押ヲ命ズ但債務者ニ於テハ之ニ相當スル金錢又ハ有價證券ヲ供託スルニ於テハ假差押ヲ免ルコトヲ得トノ命令ヲ下スベキモノナルガ故債務者ニ於テ此ノ金額ノ供託ヲ爲シタルトキハ假差押ノ執行ハ之レガ取消ヲ命セザル可カラズ即チ債務者ガ或ル條件ヲ履行シテ假差押ノ解除ヲ求ムル場合ニシテ此ノ供託ノ證明ヲ爲シタルニ因リテ假差押ノ取消ヲ命セザル可カラザルモノナリ

第二項ノ場合ハ債權者ガ其責ヲ盡サザルガ爲メ已ニ爲シタル假差押ノ執行ヲ取消サシムルモノニテ假差押ナルモノハ元來債權者ノ爲メニ其執行ヲ保全セシメントノ精神ヨリ之

ヲ爲サシムルモノナルガ故其執行ニ關スル費用ハ之ヲ債權者ニ於テ負擔セザル可カラズ例ヘバ動物ニ付キ假差押ヲ爲シタルトキノ如キ或ハ船舶ニ付キ之ヲ爲シタル場合ノ如キ之ヲ畜養スルノ費用及ビ之ヲ保存スルノ費用ハ債權者ヲシテ之レガ費用ヲ豫納セシムルコト、爲サザル可カラズ然ルニ債權者ニ於テ必要ナル此ノ費用ニ相當スル金額ノ豫納ヲ怠リ即チ假差押續行ニ付キ盡サザル可カラザルノ責ヲ盡サザルニ於テハ裁判所ニ於テハ其假差押ノ取消ヲ命ズルヲ得ルコト、爲シタリ

此ノ如ク假差押取消ノコトタル一ハ法律上規定ノ結果トシテ當然之ヲ爲サザル可カラザルコトニ屬シ他ハ事情ノ上ニ於テ裁判所ノ適宜言渡ヲ爲スコキコトニ屬スルモノナルガ故裁判ニ付テハ別段口頭辯論ヲ經セシムルノ必要之レアラザルモノナリ故ニ裁判所ハ決定ヲ以テ此言渡ヲ爲スコトヲ得ベシ而シテ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト得ルモノトス

**第七百五十五條** 係争物ニ關スル假處分ハ現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

註疏 假處分トハ假リニ一ノ處分ヲ爲スコトニテ即チ保管人ヲ置クガ如キ又ハ或ル行爲ヲ命ズルガ如キ又ハ或ル行爲ヲ禁ズルガ如キヲ云フ此ノ假處分ナルモノハ如何ナル場合

ニ於テ之ヲ爲ス可キモノナルヤ即チ本條ニ於テ定メタル所ノモノニシテ若シ現狀ノ變更  
 ニ因リテハ當事者タル一方ノ權利ヲ實行スルコト能ハサルカ又實行スルニ付キ著シキ困  
 難ヲ生ズルノ恐レアルトキニ於テ之ヲ許スモノト爲セリ實例ヲ以テ之ヲ説明センニ今茲  
 ニ甲乙二人ノ間ニ一ノ建物ニ付所有權ヲ爭フモノアリトセンニ若シ其訴訟未ダ判決セラ  
 レザルニ先チ建物ヲ占有スル一方ノ者ニ於テ之レガ取毀チヲ企ツルガ如キコトアラソニ  
 ハ訴訟ノ結果ニ因リ偶々所有權ヲ得タルモノニ於テハ現狀ノ變更即チ家屋ガ取毀タレタ  
 ルガ爲メニ權利ノ實行ヲ爲ス能ハサルニ至ラザル可カラズ即チ家屋ハ變シテ古木材ト化  
 スルニ至ルガ故一方ノ當事者ガ其權利ヲ主張シテ之ヲ確定スルニ至ルモ遂ニ家屋ノ上ニ  
 付キ權利ヲ行フコト能ハサルニ至ル可キナリ又著シキ困難ヲ生ズルノ恐レアルハ被請  
 求者ノ爲サントスル行爲ニ就キ之レガ差止メヲ主張シタルニ其權義確定セザルニ際シ之  
 チ遂行スルトキハ之ヲ舊狀ニ回復セントスルニ非常ノ困難ヲ爲サザル可カラザル場合ニ  
 シテ係争ノ土地ニツキ地上權ヲ争ヒツ、アルニ際シ一方ニ於テ之ニ工事ヲ起サントスル  
 ガ如キ場合ヲ云フモノナリ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判ノ確定ニ因リテ其權利ヲ定ムルニ  
 至ルマデ一方ノ行爲ヲ停止スルニアラザレバ其行爲ニ因リ係争物ノ現狀ニ變更ヲ生シ一  
 方ノ權利ハ此ノ變更ニ因リ竟ニ之ヲ行フヲ得ザルニ至リ又之ヲ行フトスルモ著シキ困難  
 ヲ生ズルモノナルヲ以テ法律ハ假處分ヲ以テ之レガ停止ヲ爲サシム可キモノト定メタリ

**第七百五十六條** 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ  
 手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此  
 限ニ在ラス

註疏 本條ハ以下數條ニ於テ差異ノ生ゼザル限リハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定  
 ナリ假處分ノ命令其他ノ手續ニ準用スルトノコトヲ定メタルナリ

**第七百五十七條** 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス  
 右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ  
 得

註疏 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所ニ於テ之ヲ爲スコキモノト定メタリ故ニ或ハ區  
 裁判所タルコトモ之レアル可ク或ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ爲スコトモ之アル可シ即チ本  
 條ノ請求ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テ之レガ管轄ヲ爲シ其命令ヲ爲スコキモノト  
 定メタリ此規定ハ假差押ノ場合ト相異ナル處ノモノニテ假差押ニ付テハ本案ノ管轄裁判  
 所又ハ其差押物件ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之レガ管轄ヲ爲スコキモノト定メ  
 タレハ假處分ニ付キテハ本條ノ如ク本案ノ管轄裁判所ニ於テ之レガ管轄ヲ爲スコキモノ  
 ト定メタリ蓋シ假處分ノコトタル本案ノ事實ヲ調査スルニアラザレバ其當否ヲ定ムルニ  
 困難ナル事情少ナカラザルノミナラズ容易ニ之レガ命令ヲ下スニ至テハ甚ダシキ弊害ヲ

生ズルノ恐レアルヲ以テ其管轄ヲ本案ノ管轄裁判所ニ於テ之ヲ爲ス可キモノト定メタリ  
而シテ此ノ裁判ヲ以テ口頭辯論ヲ經ズシテ爲スヲ得ルコト、定メタルハ急迫ノ場合ニ限  
リタルモノニテ若シ事情急迫ナラザルトキニ於テハ口頭辯論ヲ經セシムルヲ以テ本則ト  
爲スモノナリ

### 第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ  
給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ  
裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セ  
シム可シ

註疏 假處分ノ方法ヲ定ムルハ全ク裁判所ノ意見ニ存スルコトニテ假處分請求者ニ於テ  
爲サント欲スル處ノ目的ヲ達セシムル爲メ必要ナル處分法ヲ裁判所ノ意見ニ因テ定ムベ  
キコト、爲セリ第一項ニ於テ裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分  
ヲ定ムト爲セシハ即チ此意ニシテ處分ノ方法ニ至テハ申請者ノ申立ニ拘束セラル、處之  
レアラザルコトヲ知ルベキモノナリ然レモ第二項ノ規定ニ因リテ之ヲ見レハ保管人ヲ置

イテ其物件若クハ事業ノ保管ヲ爲サシムルコト(一)假處分被請求者ニシテ或ル行爲ヲ命  
ズルコト(二)被請求者ニ對シ或ル行爲ヲ禁ズルコト(三)假リニ被請求者ニ對シテ或ル給  
付ヲ命ズルコト等ヲ以テ處分ノ範圍トナセリ故ニ假處分ナルモノハ或ハ第三者ヲシテ爭  
ヒニ係ル物件若クハ事業ノ保護管理ヲ爲サシメ全ク係爭者ヲシテ之ニ關係ヲ爲サシメズ  
訴訟ノ結果ヲ俟タシムルコト或ハ相手方ニ於テ或ル行爲ヲ盡スニアラザレバ非常ノ損害  
ヲ與フル場合ニ於テハ假リニ其行爲ヲ命シテ請求者ノ目的ヲ達セシムルニ外ナラズ末項  
ハ假處分ヲ命シタル結果トシテ不動産ヲ讓渡スコト又ハ抵當トナスコトヲ禁シタル場合  
ニ於テハ之ヲ登記簿ニ記入セザルベカラザルコトヲ定ム蓋シ登記ナルモノハ一方ニ於テ  
ハ記入ニヨリテ權利ノ確證トナリ他ノ一方ニ於テハ該不動産上ニ權利ヲ設ケントスル者  
ノ爲メニ公告ノ方法トナルコトタルガ故不動産ノ處分又ハ之ニ抵當權ヲ設クルコトヲ禁  
シタル場合ニ於テ登記簿ニ記入ヲ爲サザルトキハ此ノ禁止命令ハ之ヲ有效ニ行フヲ得ザ  
レバナリ

### 第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

註疏 裁判所ガ假處分申請者ノ申立ニ因リ一旦已ニ假處分ノ命令ヲ爲シタル後ニ於テ特  
別ナル事情生シ假處分ヲ續ク可ラズト認メタルトキハ保證ヲ立テシメテ其處分ノ取消ヲ

命ヲ得ルモノトナセリ特別ノ事情トハ如何ナル事情ヲ云フヤハ法律ニ於テ之ヲ定ムルヲ得ザル處ナレトモ要スルニ假處分ヲ續行スルニ於テハ格段ナル困難アルコトヲ認メタル場合ヲ云フナリ此場合ニ於テハ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ命ズルコトヲ得ルモノトス

**第七百六十條** 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

**註疏** 假處分ヲ命ズルハ爭ヒアル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲メニモ爲シ得ベキモノト定メタリ例之バーノ物件ニ付雙方其權利ヲ爭ヒ何レヲ以テ占有者ト爲スコトモ判テ難キ場合ノ如キ若シ假リニ其權利關係ノ地位ヲ定ムルニアラザレバ其物件ニ付損害ヲ及ボズコト少ナカラザルコトアルベク又ハ互ニ之ヲ爭フヨリシテ其極暴力ヲ使用スルニ至ルガ如キ或ハ其地假リニ其地位ヲ定ムルニアラザレバ著シキ困難ヲ生ズルトキノ如キトキハ假處分ナル法ノ規定ニ因リ之ヲ命ズルヲ得ルコト、爲セリ

**第七百六十一條** 急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ

相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

**註疏** 急迫ニ假處分ヲ爲スニアラザレバ回復スベカラザル損害ヲ來タス場合ノ如キ或ハ又之レガ爲メニ非常ノ損害ヲ齎ストキノ如キ裁判所ハ口頭辯論ヲ經ズシテ先ヅ之レガ命令ヲ下スコトヲ得ベキモノナリ然レモ之ノ事情急迫ヲ要スルガ爲メニ爲ス處ノ處分ニシテ之ヲ適當ノ順序ト云フヲ得ズ故ニ之ヲ救フノ方法トシテ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出スベキ申立ヲ假處分請求者ニ爲サシメザルベカラズ此ノ申立ニ付テハ裁判所ノ意見ヲ以テ期間ヲ定ムベキコトナリトス故ニ假處分申請者ノ請求スル處理由アリト認メ且ツ口頭辯論ヲ俟タズ之レガ命令ヲ下サル可ラザル急迫ナル事情アリト爲スルニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ヲ爲シタルコトノ當否ニ就キ本案ノ訴訟ヲ管轄スベキ裁判所ニ向テ何月何日マデニ口頭辯論ヲ請求スベシトノコトヲ命シタル上ニテ假處分ヲ命ズルコトヲ得ルモノト爲セリ故ニ假處分ヲ命シタル區裁判所ニ於テ此命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ假處分請求者ハ其期間ヲ尊重シテ其已ニ得タル命令ノ當否ニ付キ口頭辯論ヲ命セラレノコトヲ本案ノ管轄裁判所ニ申立ザルベカラズ若シ



期間内之レガ申立ヲ爲サザルニ於テハ區裁判所ハ對手人タル被處分者ノ申立ニ因リ假處分ノ命令ヲ取消サザルベカラズ

**第七百六十二條** 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

註疏 本章ノ規定ニ於ケル即チ假處分及ヒ假差押ヲ規定シタル場合ニ於テ物件所在地ノ區裁判所若クハ本案ノ管轄裁判所ニ於テト云ヘル其本案ノ管轄裁判所ナルモノハ本案ノ訴訟ヲ管轄スベキ第一審ノ裁判所タルコトヲ定メタルモノナリ蓋シ假處分及ヒ假差押ヲ請求スル多クノ場合ハ本案ノ訴訟ヲ提起セントスルニ臨ミ之ヲ爲スカ又ハ之ヲ提起シタルトキニ於テ之ヲ爲スモノナルガ故本案ノ管轄裁判所ナルモノハ事實上ニ於テモ第一審裁判所タルコトヲ知ルベシ然レモ時ニ或ハ本案ハ第二審若クハ第三審ニ繫屬スル場合ニ於テ假差押又ハ假處分ヲ求メントスルガ如キコト之レアラズト云フ可ラズ而シテ尙ホ此ノ如キ裁判所ニ於テハ此ノ命令ヲ發セザル可ラザルモノナルヤ分明ナラザルヲ以テ本條ヲ以テ之ヲ明瞭ニシ本案ノ管轄裁判所ニ於テ云々トアルハ凡テ第一審裁判所ノコトヲ云フモノナリトノコトヲ規定シタルモノナリ然レモ本案ガ控訴審即チ第二審ニ繫屬スルトキニハ控訴裁判所ニ於テモ亦之ヲ爲シ得ベキモノト爲セリ

**第七百六十三條** 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り

裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

註疏 本條ハ假處分又ハ假差押ヲ命ズベキ事件急迫ヲ要スルモノト認メテ之レト共ニ口頭辯論ヲ經セシメズシテ裁判ヲナスベキトキニ限り裁判長ノミニテ之レガ裁判ヲ爲シ得ルトノ規定ニシテ即チ此場合ニ於テハ殊ニ裁判所構成法ニ從ヒ該法規定ノ判事相集リ合議ヲ爲スニ及バズ裁判長ノミニテ之レガ命令ヲ發シ得ルコトヲ示シタルモノナリ

**第七編 公示催告手續**

註疏 公示催告トハ債務者ガ失踪若クハ不在ナル場合ニ於テ權利ノ届出若クハ請求ノ届出ヲ爲スカ或ハ裁判上ノ或ル方式ヲ履ムニアラザレバ權利ヲ失墜スルニ至ルカ如キ場合ニ於テ其債務者ニ對スル催告ヲ公示シテ其權利ヲ留保スルノ方法ナリ

**第七百六十四條** 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲サルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

註疏 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メトハ例之バ或ル財産ノ配分上ニ付數多ノ關係者アル場合ニ於テ其財産ノ處分ヲ爲スニ付キ權利ヲ有スルモノヲシテ之レカ申出ヲ爲

カシムルコト是レナリ例之バ甲ナルモノ死去シ幾多ノ資産ト負債トヲ殘シ之レカ處分ニ窮シ債權ヲ主張セント欲スルモノハ何人ニシテ其額ハ幾何額ニ上ルベキヤ之レヲ知ルニ由ナク債權者ヲシテ之レガ申出ヲ爲サシムンコトヲ求ムル如キ場合ノ如シ而シテ債權者シテ之レガ届出ヲ爲スニアラザレバ彼レ債權者ハ法律ノ規定ニ因リ失權ノ效力ヲ生ズルトキニ限リテ此ノ公示催告ヲ爲シ得ベキモノトス故ニ家資分散ノ場合ニ於テ其分散ノ財團ニツキ之レガ處分ヲ了スル爲メ其財團ニ權利ヲ主張シ得ルモノヲシテ届出ヲ爲サシムルガ如ク凡テ法律ノ規定ニ於テ債權者ニシテ或ル時期ヲ徒過スルニ於テハ權利ヲ失フコトノ規定アルニ際シ此ノ規定ニ因リテ權利ヲ失ハシムベキコトアルニ至ランコトヲ豫告シ此ノ豫告ヲ以テ其權利ヲ確定セシムルガ爲メ此ノ方法ヲ設ケタルモノナリ

第二項ハ管轄ニ關スル規定ニシテ公示催告手續ハ區裁判所ニ於テ之レカ管轄ヲ爲スベキモノト定メタリ即チ金額ノ多少ニ係ラズ目的物ノ如何ニ係ラズ區裁判所ニ於テ之レガ管轄ヲ爲スベキモノトス

**第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得**

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得  
申立ヲ許スコキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ

殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

- 第一 申立人ノ表示
- 第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告
- 第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示
- 第四 公示催告期日ノ指定

註疏 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ニテ之ヲ爲スヲ得ト定メタルハ此ノ申立ヲ爲スニ付キ簡便ノ方法ヲ與ヘタルモノニテ必ズシモ書面ヲ備フルヲ要セザルガ爲メノミ又此ノ申立ニ對スル裁判ヲ以テ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲スヲ得ルモノト定メタルモ權利ノ申立ヲ爲サシムルカ爲メノ公示法ナルガ故之レニ付テ口頭辯論ヲ爲サシムルノ必要ナクレバナリ

此ノ申立ヲ相當ナリトスルトキハ裁判所ハ之レニ對シ許可ノ決定ヲ與フベク而シテ之レヲ許可スルトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコキモノナリトス其公示催告ニ掲グ可キ要件ハ即チ茲ニ掲ゲタル第一ヨリ第四ニ至ル各項ニシテ此ノ各項ハ裁判所ニ於テ公示催告ヲ爲ストキハ必ズ之ヲ掲ゲザルベカラザルナリ即チ第一ハ申立人ノ表示ニシテ公示催告ヲ申立タル人が何人ナルヤノコトヲ顯ハサザルベカラズ第二ノ要件ハ最モ主要ナル點ニシテ請求又ハ權利ヲ有スル者アレバ其請求又ハ權利ノ届出ヲ公示催告ノ期日マデニ爲スベ

キコトヲ催告セザルベカラズ即チ催告ヲナサシムル主眼ノ點ニシテ此ノ要件ヨリ公示催  
告タルヲ知ルベキモノナリ又第三ニハ此ノ催告ヲ公示シタル後期日マデニ届出ヲ爲サ  
ル者ノ責任即チ之レガ届出ヲ爲サザルトキハ權利上如何ナル影響ヲ受クベキヤ其失權ノ  
表示ヲ爲サザルベカラズ第四ハ公示催告期日ノ指定ニシテ其届出ハ何月何日ヲ限り之レ  
ヲ爲スベシトノ期日ヲ公示スルニアリ

**第七百六十六條**

公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ及

ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサ  
ルトキハ**第五百五十七條第三項ノ規定ニ從**ヒテ之ヲ爲ス

註疏 公示催告ニ付テノ公告即チ其催告ヲ公示スルノ法ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示スルコ  
ト官報又ハ公報ニ掲載スルコトヲ以テ之レヲ爲スベキモノト定メタリ故ニ公示催告ノ申  
立ニツキ許可ノ決定ヲ與ヘタル場合ニ於テハ前條ニ規定アル各要件ヲ具シ之レヲ裁判所  
ノ揭示板及ヒ官報又ハ公報ニ於テ公示セザルベカラズ官報トハ政府ニ於テ公文ヲ示スガ  
爲メニ出ス處ノモノニシテ即チ我現行ノ官報ヲ稱スルモノナリ公報トハ地方廳等ニ於テ  
公文ヲ示スノ機關トシテ發行スル縣報ノ如キ類ヲ云フ公示催告ハ官報ヲ以テ又ハ公報ヲ  
以テ催告ヲ公示スベキモノニテ其他法律ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケザルトキハ**第五百五十七  
條第三項ノ規定ニ從**ヒ之レガ公示ヲ爲スベキモノトス

**第七百六十七條**

公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告

期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二個  
月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

註疏 公示催告ハ之レヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ヨリ起算シテ其届出ヲ爲シ得ベキ  
期日トシテ少ナクモ二个月ノ猶豫ヲ存セザルベカラズ蓋シ此ノコトタル一般ノ權利者ヲ  
シテ請求又ハ届出ヲ爲スニアラザレバ權利ヲ失フニ至ルベキノ責ヲ歸セシムルモノナル  
ガ故若シ催告ヲ公示シタルヨリ失權ニ至ル此間ノ時間ヲ短縮シテ僅少ノ猶豫ヲ與フルニ  
過ギザルトキハ請求者ニ於テ之レガ届出ヲ爲サントスルモ其方法ヲ盡スニ違アラズ爲メ  
ニ貴重ノ權利ヲ任ゲラル、ニ至ルカ如キ憂ナシト云フ可ラズ此ノ如クナルトキハ公示催  
告ノ方法ハ特リ申立人ヲ利スルニ止マリ一般ノ債權者ニ於テハ之レガ爲メニ非常ノ困難  
ヲ生ズルモノアルニ至ル可シ斯クテハ法律ニ於テ公示催告ノ法ヲ定メタルノ旨趣ニ適ス  
ルモノト云フベカラズ故ニ本條ニ於テハ殊ニ公示催告ノ期日即チ何月何日マデニ請求又  
ハ權利ノ届出ヲ爲スニアラザレバ失權ノ效ヲ生ズベシトスルノ期日ヲ以テ官報又ハ公報  
ニ掲載シタル日ヨリ起算シ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スルヲ要スルコト、爲シタリ

**第七百六十八條**

公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出

ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

註疏 公示催告ニハ一定ノ時間ヲ設ケ或ル時間内ニ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲スニアラザレバ失權ノ效力ヲ生ズベキコトヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公示スルヲ得ルコト、爲セリ故ニ其公示催告ニ定メラルル期日ノ終リタル場合ニ於テ届出ヲ爲サザリシ者ニ於テハ届出ノ效力ナク其權利ヲ失フコト、爲サザル可ラザルニ似タリ之レ本條規定ノ必要アル所以ニシテ本條ハ失權ノ效力ヲ生ズル時期ヲ以テ除權判決ノ時ト爲セリ故ニ公示催告ニ於テ定メタル届出ノ時期ヲ經過スルモ其届出ニシテ除權判決以前ニ之レアル場合ニ於テハ適當ナル時間ニ之レヲ爲シタルモノト看做シ届出ノ效力ヲ有セシムルコト、定メタリ此ノ事タル公示催告ニ於テハ明カニ何月何日マデニ届出ヲ爲スベキコト及ビ之レヲ爲サザルトキハ失權ノ效果ヲ生ズベキコトヲ明示シタルニ拘ハラズ實際上ノ失權者ト爲スニハ此ノ時期ヲ以テ爲サザルコト、爲シタルハ其規定頗ル奇怪ニ涉ルガ如クナレドモ凡ソ請求若クハ權利ノ排除ヲ定ムルニハ裁判上ノ判決ヲ經ザルベカラザルコト云フヲ俟タザルコトナルガ故公示催告ニ於テ定ムル處ノ期間ハ除權判決ヲ下シ得ベキ時日ニ達スルノ期間タルニ過ズシテ除權判決ハ此ノ時期ニ於テ初メテ下シ得ベキコト、ナルベキモノニテ此期間ノ經過ノミニテハ未ダ以テ失權者ヲ定ムルヲ得ベカラズ此ノ期間到着シタル後除權判決ヲ下スニ至リテ初メテ失權ノ效力ヲ生ズベキモノタルコトヲ知ルベシ

**第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得**

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

註疏 除權判決ヲ爲スハ申立ニ因ルベキモノニテ申立ナケレバ之レガ判決ヲ爲シ得ベキモノニ之レアラザルナリ即チ職權ヲ以テ之レガ判決ヲ與フル場合ト區別センガ爲メ殊ニ申立ニ因リテ之レヲ爲スベキコトヲ明カニシタルモノナリ

第二項ニ於テ判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命ズルコトヲ得ト定メタルハ除權判決ノ申立人ニ對シテ此ノ命令ヲ爲シ得ベシトノ義ニシテ裁判所ニ於テコレガ判決ヲ與フルニ就キ債權ノ申出ヲ爲シ得ベキモノニテ之レヲ怠リ爲メニ其權利ヲ失却スルガ如キ者アルニ至ランコトヲ慮リ除權判決ヲ下ス以前ニ於テ十分精細ナル調査ヲ申立人ニ命ジ其債權ヲ定メシメンガ爲メ殊更ラニ此ノ規定ヲ爲シタルモノトス

除權判決ノ申立ヲ却下スルトキハ取りモ直サズ除權判決ヲ與ヘザル場合ニシテ除權判決請求者ノ請求ヲ理由ナシトスルノ判決ナリ又除權判決ニ付スル處ノ制限トハ請求者ノ請求ニ付キ或ル制限ヲ付シテ之レヲ容ル、場合ニシテ例之バ或ル種類ノ債權ヲ除クノ外ノ債權ハ除權スルト爲スガ如キ類ヲ云フ又留保トハ除權判決ヲ與フルニ係ハラズ尙ホ債權ノ申出ヲ爲スニ付キ有效ノ時期ヲ保タシムルモノニシテ即チ除權ノ時期ヲ留保シ其判決

ヲ確定セシメザル場合ヲ云フ凡テ以上ニ數ヘタル場合ハ除權判決ノ申立人ニ不利益ナル決定ヲ豫想シタルモノニシテ此ノ決定ニ對シテハ申立人ハ即時抗告ヲ爲スヲ得ルコト、定メタリ

**第七百七十條** 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

註疏 除權判決申立人ニ於テ或ル權利ヲ主張シ其處分ヲ了センガ爲メ除權判決ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ若シ其申立人ノ申立タル權利ニツキ爭ヒアリト爲シ其爭ヒノ届出ヲ爲ス者アルトキハ即チ除權判決申立人ノ主張スル權利ハ正當ナルヤ否ヤ除權判決ヲ請求シ得ベキ權利アルモノナルヤ否ヤ其爭ヒニ對スル裁判ノ確定スルニアラザレバ分明ナラザルコトナルガ故裁判所ニ於テハ事情ニ從ヒ公示催告手續ヲ中止スルコトヲ得ルナリ若シ此ノ如ク爲スニアラザレバ其申立人ニ對シ權利ヲ爭ハントスルモノハ除權判決決定ノ爲メニ權利ヲ失フコト、ナルノミナラズ或ハ此ノ權利ノ定マルニ於テハ除權判決ハ之レヲ爲スニ及バザルガ如キコト爲シト云フベカラズ故ニ申立人ノ申立ノ理由トスル權利ニ對シ爭アル場合ニ於テ公示催告手續ヲ中止スルハ最モ必要ノコトナリトス而シテ又之レガ

中止ヲナサズトスルモ除權判決ヲ以テ其届出タル權利ノ保留ヲ命ズルヲ得ルコト、爲セリ届出タル權利ノ留保トハ其權利ヲ以テ除權判決ニ於テ爲ス處ノ失權者ト爲サズ假リニ其權利ヲ存在スルモノト爲シテ之レヲ權利ノ存立者ト見做シ置クコトナリ此ノ如クスルトキハ除權判決ノ爲メニ毫モ其害ヲ受クル所ナク他日裁判ノ確定ニ因リ其權利ヲ行フコトヲ得ルコトナルガ故最モ適當ノ處分タルモノナリ

**第七百七十一條** 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニヨリ新期日ヲ定ムヘシ此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

註疏 蓋シ事實上ニ於テ之レヲ考フレバ此申立人ナルモノハ自己ノ利益ヲ全フセンガ爲メ除權判決ノ請求ヲ爲シ公示催告ヲ求ムルモノナルガ故公示催告ノ期日ニ出頭セザルガ如キコトアルベキモノニ非ズ然レモ如何ナル事情ヨリシテ此カ期日ニ出頭ヲ怠ルコト之レアラズト云フベカラズ此ノ場合ニ於テハ諸種ノ申立ニツキ如何ナル決定ヲ爲スベキヤト云フニ申立人ニシテ已ニ欠席ヲ爲シタルトキハ公示催告期日ニ於テ爲サザルベカラザル諸般ノ手續ハ之レヲ爲シ得ザルコト、ナルガ故更ラニ其申立ツル處ニ因リテ新期日ヲ定ム可キコト、爲セリ即チ改メテ公示催告期日ヲ設クベキモノナリ然レモ之ヲナスニ就テハ一定ノ期間ヲ以テ其之レヲ爲シ得ベキ時日ニ制限ヲ加フルニアラザレバ申立人ノ隨

意ニ涉リ之レニ關係ヲ有スル者ヲシテ頗ル困難ヲ感ゼシムルコトナルガ故本條末段ニ於テハ六個月ノ期間内ニ限り之レヲ爲スコトヲ得ベキコト、定メタリ故ニ公示催告期日ニ出頭ヲ爲サズ從テ公示催告手續ヲ行フ能ハザルニ至ラシメタル申立人ニシテ更ラニ公示催告期日ヲ定メノコトヲ求ムル場合ニ於テハ六個月ヲ期シ其申立ヲ爲サザルベカラズ若シ此ノ期間ヲ徒過シタルトキハ公示催告申立人ハ更ラニ期日ノ決定ヲ求ムルコトヲ得ザルモノナリ

**第七百七十二條** 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

註疏 本條ハ已ニ公示催告ノ手續ニ着手シタル後ニ於テ其手續ヲ全ク終ラズ更ラニ引續キ之レヲ完結スル爲メ新期日ヲ定ル場合ヲ規定シタルモノナリ此ノ場合ニ於テハ公示催告ノ手續ハ已ニ行ハレツ、アルモノナルガ故其手續ヲ完結スルガ爲メニ定ムル處ノ新期日ハ所謂公示催告續行ノ爲メノ期日タルニ外ナラズ故ニ別段其期日ニ就テ公告ヲ爲スコトヲ要セザルコト、定メタリ

**第七百七十三條** 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

註疏 除權判決ノ重要ナル旨趣トハ其判決ニ於テ某ノ財産ニ就テハ何レノ債權ヲ除クノ

外請求又ハ權利ヲ有スル者ナシトノ決定ヲ與ヘタル場合ニ於テ其判決中最モ必要ニシテ周知ヲ要スルノ部分即チ其財團及ビ之レニ對シ權利ヲ有スル者ハ何人ニシテ此他ハ凡テ請求又ハ權利ヲ除カレタリトノコトヲ表示シテ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得ルモノ是ナリ然レモ此ノ公告ハ裁判所ノ適宜ニシテ必スシモ之レヲ爲サザルベカラザルノ責アルモノニ非ズ唯之レヲ爲スベキ必要アリト認メタルトキニ於テハ其公告ヲ爲シ得ルコト、定メタリ此ノ理由ハ除權判決ノ目的物ニ因リテハ殊更ラニ之レヲ公告スルノ必要之レアラザルコトモ少ナカラザルベキガ故法律ハ其取捨ヲ裁判官ニ託シテ事實ニ臨ミ適當ノ處置ヲ爲サシメンガ爲メ此ノ如キ規定ヲ爲シタルニアリ

**第七百七十四條** 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

- 第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ
- 第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サ、ルトキ
- 第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ
- 第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ其届出  
ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ  
訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

註疏 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲サザルヲ以テ原則トス故ニ除權判決ヲ與ヘタルトキ  
ハ之レヲ與フルト共ニ其判決確定スルモノニシテ一般ニ上訴期間等ヲ俟タズ直チニ其判  
決ハ實行セラルベキモノトス

然レモ或ル場合ニ於テハ其判決ヲ更ムルニアラザレバ甚ダシキ不都合ヲ生ズルガ如キユ  
ト之レアラズト云フ可ラズ即チ之レガ判決ヲ爲スニツキ人事上免ルベカラサルノ過誤ニ  
陥ルコト之レアラズト云フ可ラサルガ故法律上ニ於テハ豫メ其場合ヲ豫想シ之レガ救済  
ノ手續ヲモ定メ置クノ必要アリトス尤モ此ノ事タル上訴トシテ之レヲ爲サシムルニアラ  
ズシテ他ノ訴ヲ以テ之レガ救済法ヲ與ヘタルモノナリ其對手ハタルベキ者ハ公示催告申  
立人ニシテ即チ判決ニ不服ナリトスル者ニ於テ右申立人ニ對シ訴ヲ以テ催告裁判所ノ所  
在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ申立ヲ爲シ得ベキモノトナセリ其訴ヲ提起スルニハ本條ニ  
於テ掲ゲタル六項ノ原由中其一ヲ備ヘサルベカラズ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ  
此期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第  
四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原  
告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由  
ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル  
除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五午ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコト  
ヲ得ス

註疏 不服申立ノ期間ハ不變期間ニシテ之レヲ一午トナセリ其起算ノ日ハ除權判決ヲ  
知りタル日ニシテ即チ除權判決ヲ與ヘタル事實ヲ關係者ニ於テ知りタル日ヲ初日トシ之  
レヨリ三十日以内ニ於テ不服ノ訴ヲ起シ得ベキコト、ナセリ然レトモ此ノコトタル一般  
ノ場合ニ付テ云ヘルモノニテ若シ彼ノ判決ヲ爲ス判事が法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥  
セラレタル場合ノ如キ又ハ前條第六號ニ規定セル第四百六十九條ニ定メル原狀回復ノ訴  
ニ對スル五午ノ原由ヲ適用スル場合ノ如キハ若シ其原由ヲ起訴者ニ於テ知ルヲ得タリト  
セバ格別ナレトモ必ズ之レヲ知り得ベキコト云フベカラサルガ故訴ヲ提起シ得ベキ期間  
ヲ定ムルニハ實際ニ於テ起訴者ガ此ノ事實ヲ知り得タル日ヲ以テ期間起算ノ日ト爲サ  
ルベカラズ之レヲ以テ原告トシテ起訴セント欲スル者ニ於テ除權判決後三十日以内ニ之

レガ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ毫モ關係スル處アラザレドモ若シ三十日ヲ過ギ訴ヲ起サントスル場合ニ於テハ其訴ヲ爲スベキ事實ヲ知り得タルハ如何ナル事情ニ因リ何日ニ至リ初メテ之レヲ知リタリトノ事實ヲ起點トシ之レヨリ三十日ノ期間内ニ於テ訴ヲ起スコト、爲サザルベカラザルナリ然レモ其出訴ヲナスニ付キ一定ノ期限ヲ付セザルトキハ除權判決ニ因リテ決定セヨレタル事實ハ幾數年ヲ經ルモ確乎動カス可カラザル地位ニ達スルヲ得ズシテ如何ナル場合ニ此ノ訴ヲ起サザルヤモ圖リ難キコト、ナリ且ツ證據ノ散逸スルヲモ防クベキ方法ヲ有セザルコト、ナルベキガ故第二項ハ出訴ヲナスニ付キ期限ヲ設ケ此ノ出訴ハ判決後五年ヲ經過スルトキハ之レヲ提起シ得ザルコト、爲セリ

**第七百七十六條 裁判所ハ第二百二十條ノ條件ノ存セザルトキト雖モ數個ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得**

註疏 本條ハ裁判所ニ於テ其數ケノ公示催告ニ付其併合ヲ命ズルヲ得ルコトヲ規定シタルモノナリ第二百二十條ハ準備書面及ビ口頭辯論ニ關スル規定ヲナシタル第三章中ニ設ケタル法條ニシテ即チ數ケノ訴訟ヲ併合スベキ場合ヲ定ム而シテ其法文ヲ見レバ左ノ如キ規定ヲナセリ

裁判所ハ同一ノ人又ハ別異ノ人ノ數個ノ訴訟ニシテ其裁判所ニ繫續スルモノ、辯論及ビ裁判ヲ併合ス可キヲ命ズルコトヲ得但其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一個ノ訴ニ於

テ主張シ得ベキトキニ限ル

故ニ第二百二十條ニ因リテ訴訟ヲ併合セントスルニハ目的物タル請求ガ一個ノ訴ニ於テ主張シ得ラルベキトキタラザルベカラズ一個ノ訴ヲ以テ數個ノ目的物タル請求ヲ主張シ得ルニハ請求ノ原因ノ同一ナルコト(一)請求ノ目的ノ同一ナルコト(二)ノ二條件ヲ要ス故ニ若シ其請求ノ原因異ナリアルカ又ハ其目的ニ異ナリアル場合ニ於テハ裁判所ハ數個ノ事件ニ付キ其併合ヲ命ズルコトヲ得ザレモ本條ハ此ノ條件ノ如何ニ關ハラズ數個ノ公示催告ノ併合ヲ命ズルヲ得ルモノナリ即チ公示催告ハ第二百二十條ノ規定ニ拘束セラル、コトナク數個ノ申立ヲ合一シテ之レガ判決ヲ爲シ得ベキコトタルヲ知ルベキナリ此理由ハ公示催告ノコトタル裁判上ニ於テ權利ヲ確定スベキ一ノ手續ニシテ訴訟ニアラザルヲ以テ之レヲ併合シテ其手續ヲ行ハシムルモ毫モ不都合ヲ生ズルコト之レアラザルノミナラズ却テ大ニ手數ヲ省キ速ニ手續ヲ完結スルノ便アルベキヲ以テナリ

**第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス**

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス



註疏 本條ハ盜取セラレ滅失又ハ紛失其他ノ理由ヨリシテ手形ノ無効トナル場合ニ於テハ本條以下ノ特別ナル規定ヲ準用スベキコトヲ定メタルモノニテ例之ハ爲替手形ヲ所持スル者ニ於テ其手形ヲ盜取セラレタルカ又ハ紛失シタルトキノ如キ其所持人ニ於テ自己ノ權利ヲ全フセントスルニハ先ツ其手形ノ無効ヲ宣言シテ手形其物ノ效用ヲ止メシメザルベカラズ何トナレバ手形ナルモノハ權利ノ證明ニシテ手形ニ因リテ權利ハ行ハレ得ベキモノナルカ故實際其權利ヲ保有スル者ニ於テ手形ヲ盜取セラレ若クハ紛失スルニ於テハ權利ヲ實行スベキ證明ヲ失フコト、ナルモノナルガ故其手形ガ爾來效力ヲ有セザルコトヲ公ケニシ債務者ヲシテ再ビ其請求ヲ受クルガ如キコトナキニ至ラシムルニ於テ初メテ其權利ヲ實行シ得ルコト、爲サレバカラズ而シテ其手形ヲ無効トナスニハ之レヲ公示シテ該手形ノ爲メニ權利ヲ設クルガ如キ者ナカラシメンコトヲ勉メザルベカラズ此ノ方法ハ公示催告ノ手續ニ因リテ之レヲ盡スベキコトナリ然レモ一般民法上ノ權利ト異ナリ商法上ノ權利ニ就テハ法律上特別ノ規定ヲ要スルモノアルガ故前條ニ至ル各條ノ規定ト區別シ殊ニ次條以下ノ規定ヲ以テ其公示催告手續ヲ定メタルモノナリ故ニ盜取セラレ若クハ紛失滅失シタル手形及ヒ其他商法ニ定メタル處ニ因リ手形又ハ證書ニ付キ無効ノ宣言ヲ爲スベキ場合ニ於テハ次條以下ノ特別規定ニ因ルベキモノトス

然レモ若シ商法ニ於テ公示催告ノ手續ヲ或ル證書ニ關シ特ニ規定シタルモノアルトキハ

其規定ハ本法ニ比スレバ即チ特別法トナルモノニテ特別ノ法律ハ一般ノ規定ニ優ルノ效力ヲ有スル原則ヨリシテ特ニ或ル證書ニ付キ公示催告方法ヲ規定シタルモノアルトキハ之レニ從ハザルベカラザルナリ

**第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ**

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

註疏 無記名證券トハ債權者ノ何人タルヲ指名セズ證券所持者ヲ以テ債權者ナリト見做スベキ證券ノコトニテ恰モ通貨ノ如ク一定ノ權利者ヲ指定セズ何人ト雖モ之レヲ所有スル者ニ於テ其權利ヲ行フコトヲ得ルモノニテ無記名公債證券ノ如キ數之レナリ又裏書ヲ以テ移轉シ得ベキ證券トハ券面ニ於テハ債權者ノ指定アルモ其債權者若クハ債權者ノ指定スル人ニ支拂フベキコトヲ要約シ且裏書ニ於テ略式裏書ノ方法ヲ以テ人名ダニ記入スレバ何人ニテモ直ニ此ノ手形ニ記サレタル權利ヲ行ハヒ得ルノ方法ヲ定メアルモノヲ云フ無記名債權ト異ナル點ハ一ハ所持者ニ於テ直チニ其權利ヲ行フコトヲ得一ハ人名ヲ記ハスルノ勞ヲ取リ初メテ之レヲ行用スルコトノ差異アルノミナリ本條ニ於テハ此類ノ證

券ニ對スル公示催告ノ申立ハ最終ノ所持人ニ於テ之レヲ爲スベキ權利アルモノト定メタリ蓋シ此種ノ證券ハ轉讓自在ニシテ常ニ其權利ヲ移スモノナルガ故此ノ證券ニ對スル權利者ハ最終ノ所持人タルベキモノナリトス

第二項ノ規定ハ殆ンド無用ノ規定ナルガ如シ何トナレバ其他ノ證券ニ付テハ證券ニ因リ權利ヲ主張シ得ベキ者ニ於テ此申立ヲ爲ス權利アリト云フガ如キハ法律ノ規定ヲ俟テ知ルベキコトニアラズ公示催告ノ手續ヲ履行シテ或ル證券ノ效力ヲ確定セントスルニ於テ其證券ニ因リ權利ヲ主張シ得ベキ者ニ非ザレバ其手續ヲ行フ能ハザレバナリ

第七百七十九條

公示催告手續ハ 證券ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證券ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ 發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ 發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス 證券ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

註疏 本條ニ於テハ公示催告手續ヲ管轄スベキ裁判所ハ此ノ證券ニ表示シタル履行地ノ裁判所ニ於テ之レヲ爲スベキモノト定メタリ例之ハ東京ニ於テ或ル手形ヲ發行シ此義務ハ宇都宮市何某ノ方ニ於テ履行スベシト定メタル場合ノ如キ證券ノ發行地ハ東京ニシテ

其履行地ハ宇都宮ニ之レアルモノナリ此ノ場合ニ於テ公示催告ヲ爲サントスルニハ其履行地タル宇都宮裁判所ヲ以テ管轄ト爲スコト之レ本條ノ定ムル處ナリ此ノ理由ハ證券ノ履行地ハ之レヲ他ノ場所ニ比スレバ最モ該證券ノ取引上ニ關係ヲ有スルモノナルヲ以テナリ然レモ若シ證券ニ其履行地ヲ表示シタルモノナキトキ即チ履行地ノ明示之レアラザルトキハ 發行人ノ住地コソ即チ履行ノ地トナルベキモノニテ此ノ場合ニ於テハ 發行人ノ普通裁判籍タル住所ヲ以テ之レガ管轄ト爲セリ然レモ若シ其發行人ニシテ一定ノ現住地即チ普通裁判籍ヲ有セザルガ如キコトアルトキハ其管轄ハ何レニ定ムベキヤト云フニ發行人ガ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有シタル地ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ之レガ管轄ト爲サルベカラズ

第二項ニ於テ規定シタルモノハ證券發行ノ原因不動産上ニ關係ヲ有スル場合ニシテ此ノ場合ニ於テハ證券ノ效力ハ最モ不動産ト關係ヲ有スルコト密ナルガ故其物ノ所在地ノ管轄裁判所ニ於テ之レガ管轄ヲ專屬ス

第七百八十條

申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證券ノ謄本ヲ差出シ又ハ證券ノ重要ナル旨趣及ヒ證券ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證券ノ盜難紛失滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ル

公示催告手續

ノ理由タル事實ヲ疏明スルコト

八百二十二

註疏 公示催告ノ申立人ハ本條ニ規定シタル證據ヲ以テ之レガ手續ヲ盡サハルベカラザルナリ其手續トハ第一第二ノ事項ニシテ第一ハ證書ノ謄本ヲ差出スカ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ビ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スベシトノコトニテ若シ證書ノ謄本ニシテ存在シ之レヲ差出ストキハ其謄本ハ十分證書全體ヲ知り得ベキモノナルガ故最モ完全ノ手續ヲ盡シタルコトナルモノナレモ本來公示催告ヲ爲ス場合ハ或ハ該證書ヲ盜取セラレ或ハ之レヲ紛失シ滅失シタル等ノ時ニ於テ之レヲ爲スコトナルガ故其謄本ハ凡テノ人ニ於テ之レヲ要意シテ提出スルニ差支ヘアラズト云フヲ得ズ却テ多クノ場合ニ之レガ提出ヲ爲シ能ハザルモノト推測セザルベカラズ之レヲ以テ申立人ナシテ必ズ證書ノ謄本ヲ差出サシムルコト、爲ストキハ實際ニ於テ能ハザルヲ責ムルガ如キコト、ナルモノナリ故ニ第一項ニ於テハ證書ノ謄本ヲ差出スカ又ハ之レヲ差出シ得ザルニ於テハ證書ノ重要ナル旨趣及ビ十分ニ其證書ヲ認知シ得ベキ諸件ヲ開示スベキコト、定メタリ第二項ハ證書ノ盜難紛失滅失其他公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルコト即チ何レノ場所ニ於テ如何ナル機會ニ因リ盜取セラレ若クハ紛失滅失シタリト云フガ如キ或ハ又公示催告ヲ爲シ得ベキ其他ノ事狀ニ陥リタル事實ヲ陳疏辯明セザルベカラザルナリ

第七百八十一條

公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届

出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

註疏 公示催告ノ中ニハ證書所持人ニ向テ其權利ヲ公示催告期日マデニ届出ヲ爲シ且ツ證書ヲ提出ス可キコトヲ揚ゲ及ビ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示スベキモノト爲セリ蓋シ此ノ證書所持人トハ證書ノ現所有者ヲ指セルモノニテ其證書ヲ公示催告ノ期日マデニ提出セザル可ラズ其之レヲ提出スベキコトハ公示催告ニ因リテ知り得ルコトナルガ故公示催告中ニ此ノコトヲ掲ゲザルベカラズ又之レガ届出ヲ爲ササル場合ニ於テハ其證書除權判決以後ニ出ツルコトアルモ之レヲ無効トナスモノナルガ故失權トシテ無効宣言ヲ下スベキコトヲ戒示スベキモノトス

第七百八十二條

公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又

ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス  
公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦公告ヲ揭示ス可シ

註疏 本條ハ公示催告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示スルコト官報又ハ公報ニ掲載スルコト新聞紙ニ三回掲載シテ之レヲ爲スベキモノト定メタリ官報ニ掲載スルト公報ニ掲載スルト

ハ裁判所ノ擇ム所ナレドモ其他ハ凡テ本條ノ規定ニ因リ裁判所ニ於テ此レガ公告ヲ爲サシメザルベカラズ又ハ二項ニ於テ公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキニ於テハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示スベキコト、定メタルモノハ取引所ハ專ラ此種證書類ノ移轉ヲ媒介スル處ナルガ故之レニ公告シテ普ク知ラシメンカ爲メナリ

**第七百八十三條**

公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

註疏 本條ハ公示催告ノ公告ト公示催告期日トノ間ニ存スベキ時間ヲ定メタルモノナリ而シテ其時間少ナクトモ六個月ヲ存スルヲ要ス蓋シ此ノ時間ハ權利ノ申出ヲ爲サント欲スル者ニ對シ其手續ヲ盡スベキ猶豫ノ時日トシテ法律上之レカ時間ヲ定メタルモノナルカ故此ノ時間ヲ過グルニアラザレバ除權判決ヲ爲スコトヲ得ズ

**第七百八十四條**

除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣告ス可シ  
除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

註疏 除權判決ハ申立人ニ於テ證書ヲ盜取セラレ若クハ紛失滅失シタルコトヲ理由トシ其證書ノ無効ヲ宣言センコトヲ目的トスルモノニテ其證書ノ無効ヲ確定スルガ爲メ種々

ノ手續ヲ履マシムルコト、爲セシコトタルガ故其手續ヲ全ク履踐シテ除權判決ヲ與フヘキコトニ至リタルトキハ判決ヲ以テ證書ハ無効ニ屬スベキコトヲ宣言ス可キハ當然ナリ而シテ其除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載スベキモノト定メタルハ此判決後ニ至リ該證書ニ對シ權利ヲ設クルガ如キモノナカラシメンガ爲メナリ  
若シ又此ノ除權判決ニ對シ不服申立ノ訴起リ遂ニ除權判決ヲ取消スニ至リタルトキニ於テハ其ノ判決確定ノ後官報又ハ公報ヲ以テ之レガ公告ヲ爲スベキモノトス之レ他ナシ先キニ宣言ヲ以テ證書ノ無効ヲ決定シ公告ヲナサシメタル其公告取消サル、ニ至リ證書ハ全然效力ヲ有スルコト、爲ルモノナルガ故之レガ流通ヲ遮リタル處ノ先キノ公告ヲ取消シ更ラニ其效力ヲ認メザルベカラザルノ必要ヨリ其公告ヲ命ジタルモノニ外ナラズ

**第七百八十五條**

除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

註疏 夫レ除權判決ハ證書ヲ盜取セラレ又ハ滅失紛失シタル等ヲ理由トシ其證書ニ於テ見ハシタル權利ヲ無効トスルコトニ係ルガ故之レト同時ニ申立人ニ於テハ證書ノ存在セザルニ關ハラズ權利者タルコト決定セラル、ナリ故ニ本條ニ於テ除權判決アリタルトキニ於テ其申立人ヲシテ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得ルコト、定メタルハ除權判決ノ效果ヲ明示シタルナリ

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ關係物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有ス

註疏 當事者間ニ於テ一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムベキコトヲ合意シタルトキハ此ノ合意ハ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限りテ有效ノモノト定メタリ故ニ和解ヲ爲シ得ザル幼者若クハ禁治産ノ如キ者ニ於テ之レガ合意ヲ爲シタルトキ或ハ又管理人ニ於テ或ル財團ニツキ此ノ如キ合意ヲ爲シタル場合ノ如キ即チ自ラ和解ヲ爲シ得ベキ者ニアラザルガ故之レニ關スル合意モ亦之レヲ無効ノモノト爲サ、ルベカラズ元來仲裁人ヲ立テ争ヒニ係ル事件ノ判斷ヲ爲サシメ其判斷ニ因リテ權利ヲ定ムルハ即チ一ノ和解タルガ故此ノ和解ヲナスベキコトハ民法ノ規定ニ因リ和解ヲ爲スノ能力ヲ有スル者ニアラザレバ合意ノ效力ナキコト言フヲ俟タザル處ナリ固ヨリ單純ノ和解ニ於テハ當事者雙方ノ意思ヲ定メ其相投合シタル處ニ因リ之レガ局ヲ結ブコトニテ今本條ニ規定スル處ノモノハ一名若クハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ヒノ判斷ヲ爲サシムベシトノ合意ニ係ルガ故順序ノ上ニ於テ多少相異ナル處アルガ如クナレハ畢竟此ノ仲裁人ヲシテ係争事實ノ判斷ヲ爲サシムルハ和解方法ノ一ニ過ギザルガ故其和解方法ヲ定メントスルニハ和解ヲ爲シ得ベキ能力者ヲラザルベカラザルコト更ラニ言フヲ要セザル處ナリ之レ本條ニ於テ仲裁人ヲシテ争ヒノ判斷ヲ爲サシムベキ合意ハ和解ヲ爲シ得ル者ノ間ニ於テ初メテ其效力アルコトヲ示シ仲裁手續ハ和解ヲ爲スノ一ノ方法タルコトヲ明ラカニシタルモノナリ

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セザルトキハ其效力ヲ有セス

註疏 將來ノ事實ニツキ仲裁契約ヲ爲スガ如キハ其權利關係一定ノモノニシテ之レヲ目的トシテ契約ヲ爲ス場合ヲラザルベカラズ例之ハ一ノ建築請負ヲ爲スモノアリトセンニ此ノ請負契約ニ關スル凡テノ争ヒハ某仲裁人ヲシテ之レガ判斷ヲ爲サシムベキヲ合意スルガ如キ即チ一定ノ權利關係ニシテ雙方ニ於テ此ノ權利關係ニツキ又ハ此ノ權利關係ニリ生ズベキ争ヒニツキ仲裁契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其效力アルモノナレハ之レニ反シ仲裁契約ヲ爲スノ目的茲ニ出デズ最モ汎漠ニ涉リ某々ノ間ニ起ルベキ凡テノ争ヒ若クハ某種ノ争ヒニ就テハ仲裁人ノ判斷ヲ以テ之レガ結局ヲ爲サシムベシト云フガ如キ合意ハ效力ヲ有セザルモノトス何トナレハ凡ソ將來ニ於テ其間ニ如何ナル争ヒノ生ズベキヤハ殆ンド想像スベカラザルコトニシテ合意ノ際ニ於テハ毫モ見ハレザル處ノモノナルガ故此ノ如キ合意ハ恰モ凡テノ運命ヲ仲裁人ノ爲ス處ニ放任セント云フニ異ナラズ即チ自

然ニ存スル處ノ自由ヲ放擲セント約スルニ異ナラザルヲ以テ法律ニ於テハ此ノ如キ合意ヲ以テ無効ノモノト定メタル所以ナリ

**第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス**

註疏 仲裁人ノ判斷ヲ以テ争ヒノ結局ヲ爲サシムベキコトヲ合意スル場合ニ於テハ此ノ合意ニ於テ仲裁人ノ選定ニ關スルコトヲモ要約スベキハ當然ノコトナリ然レモ若シ唯單ニ某ノ權利關係ニ就テハ仲裁人ノ判斷ニ託スベシトノコトヲ合意スルニ止マリ仲裁人選定ノ事ニ及バザルモノアリトセンカ此ノ場合ニ於テハ法律ノ規定ヲ以テ如何ニシテ之レガ結局ヲ爲サシムベキヤノコトヲ一定セザルベカラズ若シ然ラザルトキハ此ノ合意ハ仲裁人選定ノ事項ヲ欠ケルガ爲メ遂ニ其效力ヲ生ズルヲ得ザルニ至ルベキヲ以テナリ而シテ僅カニ此ノ一事ヲ欠ケル爲メ合意ノ全體ヲ無効トスルハ願ル其當ヲ得ザルコトタルガ故本條ニ於テハ此場合ニ於テ最モ適當ナリトスル理由ヲ以テ之レガ選定法ヲ定メタルモノナリ即チ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定スヘシトノ規定ニシテ當事者各自ニ於テ適當ナリト信スル仲裁人ヲ以テ之レガ仲裁ヲ爲サシムルコトナリ

**第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ**

指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ  
右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

註疏 本條ハ仲裁人選定ノ方法ヲ定メタルモノナリ之レガ爲メニ前條ノ規定ニ因リ各自一人ノ仲裁人ヲ選定シ得ベキ場合ヲ想定シタルモノナリ此場合ニ於テハ先キニ手續ヲ爲ス處ノ者ハ書面ヲ以テ相手方ニ向ヒ其何人ヲ選定シタルヤ其選定シタル仲裁人ヲ指示セザルベカラズ且ツ此ノ指示ト共ニ七日以内ニ相手方ニ於テモ此手續ヲ爲スベキ旨ヲ催告ス可キモノト爲セリ即チ此ノ催告ハ係争ノ事實ヲ速カニ落着セシムルガ爲メニナス處ノ方法ナリ

然レモ相手方ニ於テ此ノ催告ヲ受ケタルニ係ハラズ其期間ニ仲裁人ヲ選定セザルトキハ如何ニスベキヤ即チ一方ニ於テ事ノ終了セザルヲ望ミ之レガ判斷ヲ後レシメントスルトキハ勢ヒ仲裁人選定ノ如キ手續ヲ怠リ之レガ爲メニ相手方ニ損害ヲ與フルニ至ルモノナリ故本條第二項ハ此ノ催告アルニ係ハラズ相手方ガ選定ノ手續ヲ盡サズ期限ヲ徒過シタルトキハ其先キニ手續ヲ爲セシ一方ノ申立ニ因リ管轄裁判所ハ仲裁人ノ選定ヲ爲スベキモノト定メタリ即チ其手續ノ履行ヲ怠ル處ノ者ニ代ハリ裁判所ニ於テ之レガ選定ヲ爲スコトニテ此ノ選定ハ先キニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リテ之レヲ行フモノトス

第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

註疏 先ニ手續ヲ爲シタル仲裁手續申立人ニ於テ已ニ仲裁人ノ指示ヲ爲シ之レテ相手方ニ通知シタル以上ハ相手方ニ對シ其選定ニ羈束セラル、コトヲ定メタモノニテ即チ一旦已ニ指示シタル上ハ隨意ニ之レガ變更ヲ爲スコトヲ得ズ相手方ノ爲メニ此ノ選定ヲ守ラザルベカラズ蓋シ一方ニ於テ已ニ仲裁人ノ選定ヲ指示シタルトキハ其相手方タル他ノ一方ニ於テハ之レニ對スル相當ノ者ヲ選ムベキコト當然ナルヲ以テ若シ指示ノ後ニ至リ隨意ニ之レガ變更ヲ爲ストキハ相手方ニ於テハ困難ヲ生ズルモノ少ナシト云フベカラズ之レヲ以テ選定ノ指示ハ相手方ノ爲メニ羈束セラル、コトヲ定メ之レヲ指示シタル後ニ至リ隨意ニ變更スルヲ許サザルニアリ

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

註疏 仲裁人ニシテ死亡スルカ又ハ其他ノ理由即チ旅行或ハ受刑等ノ爲メ欠缺シタルト

キ仲裁人タル職務ノ引受若クハ其施行ヲ拒ミタルトキハ之レガ選定ヲ爲シタル當事者ハ更テニ適當ノ仲裁人ヲ選マザルベカラズ蓋シ此ノ場合ハ一方ノ仲裁人不時ノ變ニ因リ欠缺シタルモノナルガ故法律ニ於テハ之レヲ補フベキ方法ヲ規定セザルベカラズ即チ此ノ欠缺シタル仲裁人ヲ選定シタル者ニ於テハ相手方ノ催告ニ因リ七日以内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シトナセシ所以ナリ而シテ其選定ヲ怠ル場合ニ於テハ管轄裁判所ニ於テ之レヲ選定ス可キモノトス

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得  
無能力者聾者啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

註疏 仲裁人ナルモノハ私ニ之レヲ選ムモノナリト雖之レニ託シテ爭ノ判斷ヲナサシメントスルニアルガ故其人ハ最モ公平ニシテ偏頗ノ處置アルベカラズ而シテ之レガ判斷ヲ公平ナラシメンニハ其爭ヒニ係ル事ニ關係ヲ有セザル處ノ者ヲ以テ之レニ宛テザルベカラズ恰モ之レ私ノ契約ヲ以テ雙方ノ爭ヒニツキ裁判ヲ爲サシムルニ異ナラザルガ故本條

ニ於テハ判事ヲ忌避スルト同一ノ理由及ビ條件ヲ以テ之レヲ忌避スルコトヲ得ベキコトヲ定メタルナリ而シテ判事ノ忌避ニ關スル法條ハ第三十二條及ビ第三十三條ニ定ムル處ニシテ今之レヲ摘載スレバ左ノ如シ

第三十二條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ因リ其職務ノ執行ヨリ除外セラル可シ

第一 判事又ハ其婦ガ原告若クハ被告タルトキ又ハ訴訟ニ係ル請求ニ付キ當事者ノ一方若クハ雙方ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ

第二 判事又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 判事が同一ノ事件ニ付キ證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ訴訟代理人タル任ヲ受ケルトキ若クハ受ケタルトキ又ハ法律上代理人ト爲ル權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

第四 判事が不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ仲裁ニ於テ爲スニ當リ判事又ハ仲裁人トシテ干與シタルトキ但此場合ニ於テ判事ハ受命判事又ハ受託判事トシテ職務ノ執行ヨリ除外セラルコト無シ

第三十三條 判事が法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラルトキ及ビ偏頗ノ恐レアル

トキハ總テノ場合ニ於テ各當事者ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

偏頗ノ忌避ハ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ事情アルトキ之ヲ爲スコトヲ得

即チ仲裁人ニ於テモ此ノ理由ヲ具フルトキハ之レヲ以テ忌避ノ理由ト爲シ當事者ヨリ忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ之レ仲裁人モ亦判事ト同シク當事者ノ争ヒニ係ル事實ニツキ公平無私ノ判斷ヲ與フベキ職務ヲ有スルモノナルガ故此等忌避ノ理由ヲ有スル仲裁人ハ到底公平ノ判斷ヲ託スルニ足ラズト爲スニ據ル

若シ又此等忌避ノ理由ノ外選定セラレタル仲裁人が無能力者聾者啞者及ビ公權剝奪又ハ停止中ノ者ニ係ルトキハ一般ノ信用ヲ有セザル者ト推測セラレタル者ナルガ故忌避スルヲ得ルモノトセリ

又仲裁人が其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ當事者が仲裁契約ヲ爲シタルノ目的ニ反スルヲ以テ此場合ニ於テモ之ヲ忌避スルコトヲ得ベシ

### 第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サ、リントキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ



又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ  
遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルト  
キ

註疏 其效力ヲ得セシメントスルニハ契約其物ヲ以テ係争ノ事實ヲ完結スベキ方法ヲ定  
メザル可カラズ若シ之レヲ完結セントスルニハ或ル理由ノ爲メ之レヲ完フシ得ラザル  
モノアルニ至テハ其契約ハ之レヲ爲スモ遂ニ之ヲ行ハシムルヲ得ザルニ至リ仲裁契約ノ  
效力ハ之レアラザルニ至ルモノトス本條第一ニ規定シタル事項ハ仲裁手續ヲ完結セシム  
ルニ就キ生シ得ベキ困難ノ場合ニシテ其第二ハ仲裁人ノ仲裁意見一致セザルトキヲ想定  
シタルモノナリ

第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル  
限りハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ  
仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラザル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人  
ノ意見ヲ以テ之レヲ定ム

註疏 仲裁判斷ナルモノハ判決ト同シク全ク公平無私ノ意見ヲ以テ當事者間ニ於テ相争  
フ處ノ事物ヲ調査シテ之レガ理非ヲ判定スベキモノナルガ故仲裁判斷ノ前ニ於テ當事者

ヲ審訊シテ其争フ處ノモノハ何レノ點ニ存シ且其根據トスル理由ハ如何ナルヤノコトヲ  
定メザルベカラズ若シ之レヲ審訊セザルニ於テハ其事情明瞭ヲ欠キ從テ完全ノ判決ヲ導  
キ能ハザルニ至ルベキガ故殊ニ本條ヲ以テ必要トスル限りハ其争ヒノ原因ニ付キ事件ノ  
關係ヲモ探問了知スベキ方法ヲ盡カサルベカラズ之レ事情不明瞭ノ間ニ於テ不完全ナル  
判斷ヲ與フルガ如キコトナカラシムル爲メナリ

此他仲裁ヲ爲スニ付テノ手續ハ當事者豫メ合意ヲ以テ之ヲ定メタルトキハ其定メタル處  
ニ從フ可キモ之ヲ定メザル場合ニ於テハ仲裁人協議シテ之ヲ定メザルベカラズ

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ  
訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

註疏 仲裁人ニ於テハ或ハ證人或ハ鑑定ヲ殊更ラニ命令シ之レヲ召喚シテ審訊スルノ權  
利ヲ有スルモノニアラザレドモ仲裁人ノ面前ニ任意ニ出頭スル者ニ對シテハ或ハ之レヲ  
證人トシ或ハ之レヲ鑑定人トシテ審訊スルコトヲ得ルモノト爲セリ之レ仲裁人ニ於テ係  
争ノ事實ニツキ判斷ヲ爲スガ爲メ必要ナリトスル場合ニ於テ爲スコトヲ得ル調査ノ方法  
タリ然レモ之レニ對シテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ズト爲セシハ本來此ノ仲裁判斷ハ當  
事者ノ合意ニ因リ私ニ爲ス處ノモノナルガ故其證人若クハ鑑定人ヲ強イテ即チ公務トシ

テ役スルヲ得ザルモノナルヨリ此ノ如ク定メタルモノニテ宣誓ヲ爲サシメタルトキハ證人トシテ又鑑定人トシテ特種ノ責任ヲ生ズルモノナルヨリ仲裁人トシテハ之レヲ命ズルヲ得ザルナリ

**第七百九十六條**

仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲スコシ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

註疏

仲裁判斷ヲ爲スニハ必ず證人若クハ鑑定人ノ審判ヲ要スル事情アル如キモニ於テ其證人タル者又ハ鑑定人タル者ガ任意ニ出頭セザルトキハ仲裁人トシテハ之レヲ如何トモ爲スコト能ハズ故ニ此ノ場合ニ於テハ當事者ハ裁判所ニ向テ其調査ノ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノニテ檢證ノ如キモ亦之レニ屬スルナリ管轄裁判所ニ於テハ其申立ニ因リテ相當ナリト思量スルニ於テハ之レガ調査ヲ爲スベキモノト定メタリ蓋シ仲裁判斷ヲシテ全カラシメントスルニハ此ノ如ク公力ヲ以テ補助スルノ方法ヲ與フルニアラザレバ不都合ヲ生ズベキヲ以テナリ

而シテ已ニ管轄裁判所ニ於テ其申立ヲ理アリトナシ證人又ハ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於

テハ其證人鑑定人タルモノハ裁判所ノ命令ニ由テ公義務ヲ帶フルモノナルガ故之レガ證言ヲ爲シ鑑定ヲ爲スハ仲裁契約ニ原由スルトハ云ヘ裁判所ニ向テ其責任ヲ帶フルモノナリ故ニ裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ爲シ得ベキコト、定メタルモノナリ

**第七百九十七條**

仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト仲裁契約カ判斷ス可キ争ニ關セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

註疏

當事者ガ仲裁手續ヲ許ス可ラザル理由トシテ其判斷ヲ拒ムニ係ルモノ即チ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セザルコト仲裁契約ガ判斷スベキ争ヒニ關係ナキコト又ハ仲裁人ガ其職務ヲ施行スル權ナキコト等仲裁判斷ヲ遮ラントスルモ仲裁人ハ之レガ爲メニ其手續ノ續行ヲ妨ゲラルコト、ナク仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得ルトノコトヲ定メタリ畢竟此ノ規定タル仲裁判斷ノ爲メニ不利益ヲ蒙ルベキ位置ニ立ツモノニ於テ之レヲ遷延セシマンガ爲メ種々ノ抵抗ヲ爲スモノアランコトヲ慮リ之レヲ理由トシテ申立ヲ爲ス場合ニ於テモ尙ホ之レヲ續行スルニ忌憚ナカルベキヲ示シタルナリ

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス可キトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラズ

註疏 本條ハ仲裁判斷ハ若シ仲裁人數名ニシテ其意見相異ナルトキハ過半數ノ同スル處ニ決定スベシトノコトヲ定メタリ是レ最モ適當ノ規定ニシテ凡テノ採決法ニ於テモ過半數以上ノ同意スル處ヲ以テ決定ノ標準ト爲スコト普通ノ例ニシテ過半數ノ同意シタル處ハ最モ理ニ近キコトヲ推測シ得ラル、ガ故ナリ然レモ其仲裁契約ニ於テ或ハ比較的多數ノ意見ヲ以テ判斷ノ基礎トナスベシトノ特約アル如キ場合ニ於テハ法律ハ必シモ之ヲ不都合ト爲スニアラズ即チ合意ヲ以テ決定ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法ニ從フモ差支ナシ之レ本條ニ但書アル所以ナリ

第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其作りタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

註疏 仲裁判斷ニ之レヲ作りタル年月日ヲ記載シ仲裁人ノ署名捺印ヲ爲ス可キヲ命ジタルハ他日此判斷ニツキ紛議ヲ生ズルガ如キ場合ニ於テ之レヲ調査スルノ必要ナシト云フ

可ラザルガ故此ノ如キ手續ヲ命ジタルモノナリ又其仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ヲ當事者ニ送達セシムルハ判斷ガ如何ニ結了シ當事者ノ權利關係ハ如何ニ決定セラレタルヤ之リニ因リテ初メテ知ラレ得ベキコトナルガ故之レガ送達ヲ命ジタルモノニテ其送達ノ證ト原本トヲ管轄裁判所ノ書記課ニ預ケシムルモノハ其判斷ヲ保存シテ異日必要ノ生シタル場合ニ於テ之レヲ知ルニ容易ナラシムルノ便益ヲ得セシムルガ爲メニシテ且ツ權利關係ノ結了ヲ證スベキモノナルガ故ナリ

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

註疏 本條ハ仲裁判斷ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ當事者間ニ於テハ其仲裁判斷ハ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力アルモノトス故ニ判決ノ效果ヨリ執行力ヲ有スルガ如キ又此判斷ニ對シ同一ノ事由ヲ以テ争ヒテ起シ得ザルガ如キ凡テ確定判決ニ於テ生ズベキ效力ハ仲裁判斷ニ付テモ亦之レアルモノナリ

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラサリシトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡

シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリ  
シトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ  
訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號  
及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

註疏 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テハ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ズルモノナレドモ本條ニ掲  
ゲタル理由アルトキハ之レガ取消ヲ申立テ得ルモノトナセリ

各原由中第四及第五ノ原由タル當事者ノ審訊及ヒ判斷ノ理由ハ豫メ當事者間ニ於テ之レ  
ヲ不必要ナリトスルトキハ其省畧ヲ合意スルコトヲ得ベキモノニテ此場合ニ於テハ因  
リ之レヲ以テ取消ノ原由ト爲スチ得ルモノナリ

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可  
キコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スル

トキハ之レヲ爲スコトヲ得ス

註疏 仲裁判斷ハ當事者ノ間ニ於テハ確定シタル判決ト同一ノ效力ヲ生ズルモノナルガ  
故其判斷ハ強制執行ヲ以テ之レヲ履行セシムベキ效力ナカルベカラズ然レモ判斷其物ヲ  
以テ直チニ執行ヲ爲サシムルハ或ハ危險ノコトナキヲ保ス可ラザルガ故本條ニ於テ執行  
判決ヲ與フルコト、爲シ執行判決ニ於テ之レヲ許スベシト決定シタルトキニ限り之レヲ  
爲サシムルコト、定メタリ故ニ仲裁判斷ヲ受ケタル當事者ニ於テ強制執行ヲ爲サントス  
ルトキハ必ず執行判決ヲ求メザルベカラズ而シテ執行判決ヲ與フルハ前條規定シタル取  
消ノ原由ナキニ限ルベキモノニテ此ノ原由ハ取りモ直サズ仲裁判斷ノ不完全ニシテ取消  
カレ得ベキ場合ヲ想定シタルモノナルガ故執行裁判所ハ其判斷ヲ調査シ此原由ナキニ於  
テハ執行判決ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第  
六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ  
自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリ  
シコトヲ説明シタルトキニ限ル

註疏 執行判決後ニ於テハ當事者ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ザルヲ以テ原則  
トス故ニ之レガ取消ヲ主張セント欲スル者ハ執行判決前ニ於テ十分手續ヲ盡サソル可ラ

サルナリ最モ前條第六號ニ規定シタル原由ハ原狀回復ノ場合ニシテ此ノ場合ハ當事者ニ於テ仲裁判斷後執行判決前ニ於テ其原由アルコトヲ知ルヲ必ス可ラザルモノナルガ故若シ執行判決前ニ於テ之ヲ知ラザリシコト即チ自己ノ過失ノ故ニ取消ノ理由ヲ主張セザリシニアラザルコトヲ疏明スルトキハ此ノ原由ニ限り執行判決後ト雖モ取消ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノト定メタリ

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

註疏 仲裁判斷取消ノ訴ヲ前條ニ規定シタル即チ第八百一條第六號ノ原由ニ基キ提起セントスルニハ一ヶ月ノ不變期間内ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス此ノ期間ハ當事者ニ於テ其原由ノ存在スルコトヲ知リタル日ヨリ始マルベキモノナリ尤モ其原由ヲ知リタル時日ニシテ執行判決確定前ナルトキハ其確定ノ時ヲ以テ起算ノ日ト定メ之レヨリ一ヶ月ノ期間ヲ有スルコト、爲セリ若シ又執行判決確定後滿五ヶ年ヲ經過シタルトキハ假令ヒ此

原由ノ存スルトスルモ此ノ訴ヲ起シ得ザルナリ

訴ニ因リ仲裁判斷ヲ取消ストキハ同時ニ執行判決ヲモ取消スベキモノト定メタルハ執行判決ハ仲裁判斷ヲ元トシテ附與シタルモノナルガ故其根原ヲ取消ス以上ハ之レニ對シ與ヘタル執行判決モ亦自然ノ結果ニ於テ取消サレザル可ラザルヲ以テナリ

第八百五條

仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スル

コト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト、又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ヲキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有スコキ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

註疏 本條ハ仲裁契約ニ基ケル訴訟ニ付キ管轄裁判所ヲ定メタルナリ此管轄ニ付テハ當事者ノ合意ヲ以テ豫メ之ガ指定ヲ爲スコトヲ許シ若シ仲裁契約ニ於テ之ヲ契約シタルモノアルトキハ此契約ニ係ル區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ之ガ管轄ヲ爲スベキモノトス而シテ其仲裁契約中之ガ指定ヲ爲シタルモノ之レアラザルトキハ其仲裁契約ニ係ル爭ヒ

ノ請求ヲ裁判上主張スルトキニ於テ管轄ヲ爲スベキ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ之ガ管轄ヲ爲スベキモノナリ然レモ仲裁契約ヲ爲ス處ノ當事者數人ナルカ又ハ其他ノ理由ニ因リ此ノ管轄ヲ有スル裁判所數ヶアルトキハ何レノ裁判所ニ於テ之ガ管轄ヲ爲スベキコト、爲スベキヤ第二項ハ之ニ答ヘテ當事者又ハ仲裁人ガ最初ニ關係ヲ爲サシメタル裁判所ニ於テ之ガ管轄ヲ爲スベキモノト爲シマリ蓋シ仲裁判斷ヲ爲スニ際シテハ其判斷ノ原本ヲ裁判所書記課ニ預ケ置ク等裁判所ニ對シ關係ヲ有スルコト少シトナサズ或ハ又証人鑑定人等ノ審訊ヲ托スルガ如キ大ニ之ニ關係ヲ爲スモノアルガ故ニ本條ハ凡テ最初ニ仲裁判斷ニ關係セシメタル裁判所ニ於テ之ガ管轄ヲ爲スベキモノナリトコトヲ規定シタルモノトス

# 民事訴訟法釋義終

## 附 錄

### 民事訴訟法施行條例

朕民事訴訟法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條 民事訴訟法實施前ニ闕席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第三條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第四條 民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ

民事訴訟法施行條例

リ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊法ニ從フ第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得カル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第七條 民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ內刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ內其慣例ニ從フ

第十一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ內其效力ヲ有スルモノトス

第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トアルテ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ內其效力ヲ有スルモノトス

### 民事訴訟費用法

明治二十三年八月法律第六十四號發布  
明治三十三年一月法律第三號改正

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

### 民事訴訟費用法

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但シ半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第四條 民事訴訟用紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁

判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

四

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得此ノ一項三十三年一月十三日法律三號ニテ改正ナリタリ

第十二條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金二十五錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス

第十三條 當事者、證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス通路兩線以上アルトキハ最近ノ過路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨驗ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ滞在費ハ證人ニ準ス

第十五條 本法ニ定マサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手数料規則ニ定マサルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ヲ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

### 民事訴訟用印紙法

明治二十三年八月法律第六十五號

除民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スベキコトヲ命ス

### 民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ

二十錢

同 十圓マテ

三十錢

民事訴訟用印紙法

五



同 二十圓マテ	六十錢
同 五十圓マテ	一圓五十錢
同 七十五圓マテ	二圓五十錢
同 百圓マテ	三圓
同 二百五十圓マテ	六圓五十錢
同 五百圓マテ	十圓
同 七百五十圓マテ	十三圓
同 千圓マテ	十五圓
同 二千五百圓マテ	二十圓
同 五千圓マテ	二十五圓
同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ	

六

第三條 訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非ザル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非ザル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト合併スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的ガ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アラフコトヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴訟ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス

可シ

八

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セザル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

## 供託法

(明治三十二年二月七日公布)

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限り之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ

供託法

九

還付ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依ルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス  
第十四條 明治二十三年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十三年三月一日印刷  
明治三十三年三月八日發行

民事訴訟法釋義

著作權  
登錄濟

定價金一圓六拾錢

著作權者 行 森 龍 太  
著作權者 後 藤 本 馬

發行所 青 木 恒 三 郎  
東京市日本橋區通一丁目十七番地

印刷所 嵩 山 堂 印刷部  
大阪市東區心齋橋筋博勞町角

發行所 青 木 嵩 山 堂  
東京市日本橋區通一丁目角  
電話 東二五〇番

發行所 青 木 嵩 山 堂  
伊勢四日市市堅町  
電話 本局七八九番

賣捌所 嵩 山 堂 支 店

萬民必携・各法律書・發刊廣告

東京專門學校講師  
日本及佛國法律學士  
前法典調查委員  
前治法典調查委員  
明法典調查委員  
前法典調查委員  
法典調查委員  
法典調查委員  
法典調查委員

磯部四郎先生序 文

岸本辰雄先生校閱並序

土岡田修先生著 述

# 改正民法釋義

總則 物權法 債權法

親族法 相續法

## 附改正法例釋義

全部合本上製クローズ綴金文字入全一冊定價金二圓特別正價一圓廿錢郵稅十八錢

普通法律ノ常人ニ解シ難キハ論ヲ待タズ、其講義ノ書モ亦解義釋然常人ニ會得セシムルノ書亦甚ダ少シトス、況ヤ火ヲ見テ走ルノ輩ノ著セル法律ノ頒布ト共ニ發刊セカ書ニ於テナヤ、著者斯ニ見アリ、深思攻究各條ニ付(説明)ノ欄ニ條義ヲ釋然タラ

シメ(疑問)ノ欄ニ疑問ヲ設ケテ解明シ(注意)ノ欄ヲ設ケテ誤解ナカラシム其用意ヤ周到、用語平易、法語法文ノ意義及適用上ノ疑點ヲ解説シテ法學ノ素養ナキ常人モ一讀釋然タルベシ殊ニ民法ノ制定ニ參與サレシ有名ナル岸本先生自ラ校閱ノ勞ヲ執テ正レシ正確ナル書ニテ坊間射利ノ書ト同日ノ論ニアラズ、曩ニ既ニ講義正解等一夜作ノ書ヲ求メタル人モ再ヒ本書ヲ購入シテ其疑團ヲ氷解セヨレヨ

●貸借證書、契約、訴訟雛形、諸願、諸届書式

正條援引  
**改正民法書式**  
 註釋說明

洋綴全一冊  
 特別正價三十錢  
 郵稅六錢

附司法省民刑局纂定戶籍諸届人事訴訟書式

民法及ヒ戶籍法ノ實施セラレテユリ坊間之レガ註釋書ノ發兌夥シキモ未ダ民法ノ全部ニ涉リ正確詳密ナル書式ヲ纂集シタルモノナシ獨リ該書ハ新民法ノ全部ニ付法典編纂ノ順序ニ從ヒ實際ノ取扱ニ適センコトヲ旨トシ書式ノ千種萬様ヲ網羅ス而シテ各款項ニハ註釋ヲ加ヘテ其規定ノ何ナルヲ示シ、書式ノ欄頭ニ民法戶籍法等ノ該當スベキ法條ヲ掲録シ、書式ノ末尾ニハ逐一詳細ナル説明ヲ加ヘタリ殊ニ本書ノ附録

トシテ司法省民刑局ノ纂定セラレタル戶籍法ト届出ツヘキ一切ノ書式并ニ人事訴訟手續法ニ依リ人事訴訟書式ヲ總括シタルハ苟モ民法戶籍法人事訴訟手續法ノ眞諦ヲ穿テ諸契約或ハ貸借諸證ノ完全ナラント期セントセバ一ニ本書ニ據ルヲ利トス、本書ハ人事百般一日モ缺ベカニザル要書ナリ

法理明晰 商法典解釋書中之霸王 行文流暢

貴族院議長 公爵近衛篤磨公題辭  
 東京專門學校講師 磯部四郎先生跋文  
 日本及佛國法律學士 岸本辰雄先生校閱  
 明治法律學校校長 リッサーセン、アンドロワ  
 法學士 行森龍太先生著述

**改正民法釋義**  
 破產法 非訴事件手續法  
 供託法 船舶法  
 船員法

附改正商法施行法釋義

西洋綴美本全一冊紙數一千百頁餘定價金二圓特別正價金壹圓  
 四十錢郵稅二十錢

本書ハ今回修正サレタル商法典ニ付キ遂條「義解」「疑問」「注意」等ノ各欄ヲ設ケテ平易簡明ニ解釋シ且民法ハ勿論、商法施行法、非訟事件手續法、船員法、船舶法等總テ關係アル諸法律ノ條項ヲ舉示シテ參照ニ便ニシ專門法律家ニ非サル人士ニモ一讀瞭然商法ノ意義、適用及ヒ他ノ法律トノ關係等ヲ知悉シ得セシムヘク行森先生ノ最モ親切ナル注解ニ加フルニ我邦商法學者ノ泰斗トシテ親シク其制定ニ參與セラレタル岸本先生ノ校閲ヲ以テシ優ニ紛々タル諸注釋中ノ白眉タルハ弊堂ノ固ク信スル所ナリ乃チ乞フテ上梓ス坊間射利是レ事トスル杜撰ノ諸書ト同視セス希クハ購讀アラントナ

新法典合集

改正民  
戶籍法

法  
法

總則 物權 債權 親族  
相續 法例 民法 施行法  
人事訴訟手續法  
非訟事件手續法 競賣法

以上十法則合本全一冊紙數四百頁正價十六錢郵稅六錢

增補第十版

改正戶籍法・願屆書式全書

附 戶籍法取扱手續法・戶籍法令彙纂

洋綴美本全一冊  
正價十五錢  
郵稅四錢

●平易明瞭何人にて解し易きは本書の得色あり●

衆議院副議長法典 元田肇先生序  
調査委員法學士 東京法學院學友 後藤本馬君著

改正商法講義

附 商法施行法講義

西洋綴クロス製金文字入  
全一冊定價金壹圓  
特別正價六拾錢  
郵稅拾二錢

商法ハ商人ハ勿論非商人ニテモ之ヲ心得サレバ損失ヲ蒙リ不便尠ナカラザルノミナラズ法律ノ結果トシテ不識不知財產ヲ他人ニ奪取ラル、ノ恐アリ殊ニ民法ハ商法ト相待テ其用ヲ爲スモノナレバ其條文ノ交錯セルカ爲メ民法ヲ讀ムノ人亦必ズ商法ヲ讀ムノ必要ヲ生スルハ論ヲ俟タズ依テ弊堂ハ今般發布ノ新商法ニ平易明瞭ノ講義ヲ施シタル本書ヲ刊行セリ且ツ本書ハ法典調査會ノ取調ニ係ル理由書ヲ基礎トシ願ル綿密ニ各條註疏シアレバ何人ニモ一讀ノ下ニ了解シ得ラルベキ良書ナリ

改正商法付

破產法

●合本全一冊正價拾錢  
郵稅四錢

●吾人の權利に於ける利害得喪は本書に依つて  
左右せらる

六

日本佛國法律學士 東京專門學校講師 磯部四郎先生序文  
明治法律學校講師 米國 法學士 小澤政許先生序文  
明治法律學校友 東京辯護士會副會長 齋藤孝治君著

# 改正登記法書

西洋綴クローズ製金文字本  
全一冊 正價金六拾錢  
郵 稅 十 錢

目 録  
第一篇 不動產登記法 ● 第二篇 商業登記法 ● 第三篇 船舶登記法 ●  
● 第四篇 人事登記法 ● 第五篇 改正登記法 ● 印紙稅法 ●  
● 船舶登記規則 ● 船舶登記取扱手續 ● 登記稅法施行  
● 細則 ● 船舶登記規則 ● 船舶登記取扱手續 ● 登記稅法施行  
● 登記ニ關スルノ書既ニ上梓スルモノ紛々雜々タリト雖モ本書ノ如ク完全無缺以テ大  
● 成セルモノ未ダ管テユレアラサルナリサレバ今回改正發布セラレタル諸法律ノ登記  
● ニ關スルモノハ右記目錄ノ如ク一モ洩サズ盡ク網羅シ簡潔ニ明確ニ解釋セルモノニ  
● シテ必要ノ書式等ヲ挿入シ此一書ヲ備ヘバ登記ニ關スル一切ノ法規ニ通シ得ヘク登  
● 記法全書ノ名決シテ虛シカゾ而シテ登記ハ利害得喪ノ個人的ニ係ルモノ頗大ナル  
● アリ速ニ購讀ヲ賜ヘ

岸定之助先生著述

# 不動産登記申請書

洋裝美本全一冊  
正 價 金 十 錢  
郵 稅 二 錢

斯書は司法省にて制定せられ全國各裁判所へ配付せられたる申請書式に據り一般當  
● 事者に便せん爲め著者が法曹界に於ける多年の學理と經驗とを斟酌し以て著述せら  
● れしものにしてすべて登記に關する正確の書式を列記し一々書式の下に正條を援引  
● し來り簡易明瞭に解釋を施し應用方法を示したる坊間未だ曾てあらざる一種特色の  
● 好書なれば職を此道に奉ずるものは勿論一般登記の申請をなさんと欲する人士には  
● 座右缺くべからざる書なり

見よ 貸借諸證書 ● 種々契約 ● 訴訟 見よ  
● 雛形 ● 諸願届書式 ● 各諸規則

# 現行改正貸借憑携

洋裝美本全一冊紙數三百廿頁  
正價廿五錢郵稅六錢

本書は貸借者ニ便セン爲メ契約ノ成立、取結ノ方法ヨリ消費貸借、使用貸借、賃貸

七

借其他抵當、寄託、供託、雇傭、賣買、連帶債務、保證、手形、會社設立ノ手續、定款ノ編成ヲ詳密ニ叙述シ次ニ原告被告ノ執ルベキ起訴防訴ノ手續ヲ掲ケ次ニ民事商事ニ關スル諸般ノ書式及ヒ訴訟ニ關スル一切ノ訴訟書式ハ勿論民事訴訟費用法、同印紙法、商事非訴事件印紙法、執達吏規則、同手数料規則等ヲモ集録シ最後ニ登記及ヒ登録稅ノ手数料及ヒ稅率ヲ示シ又印紙稅法ニ定メタル新規ノ貼用手續ヲ正確詳細ニ説明シ現今ノ取扱手續ハ載セテ本書ニ漏スコトナシ速ニ一本ヲ購讀セラレヨ

法學士 小川平吉先生校閱  
祖水人 後藤本馬先生審述

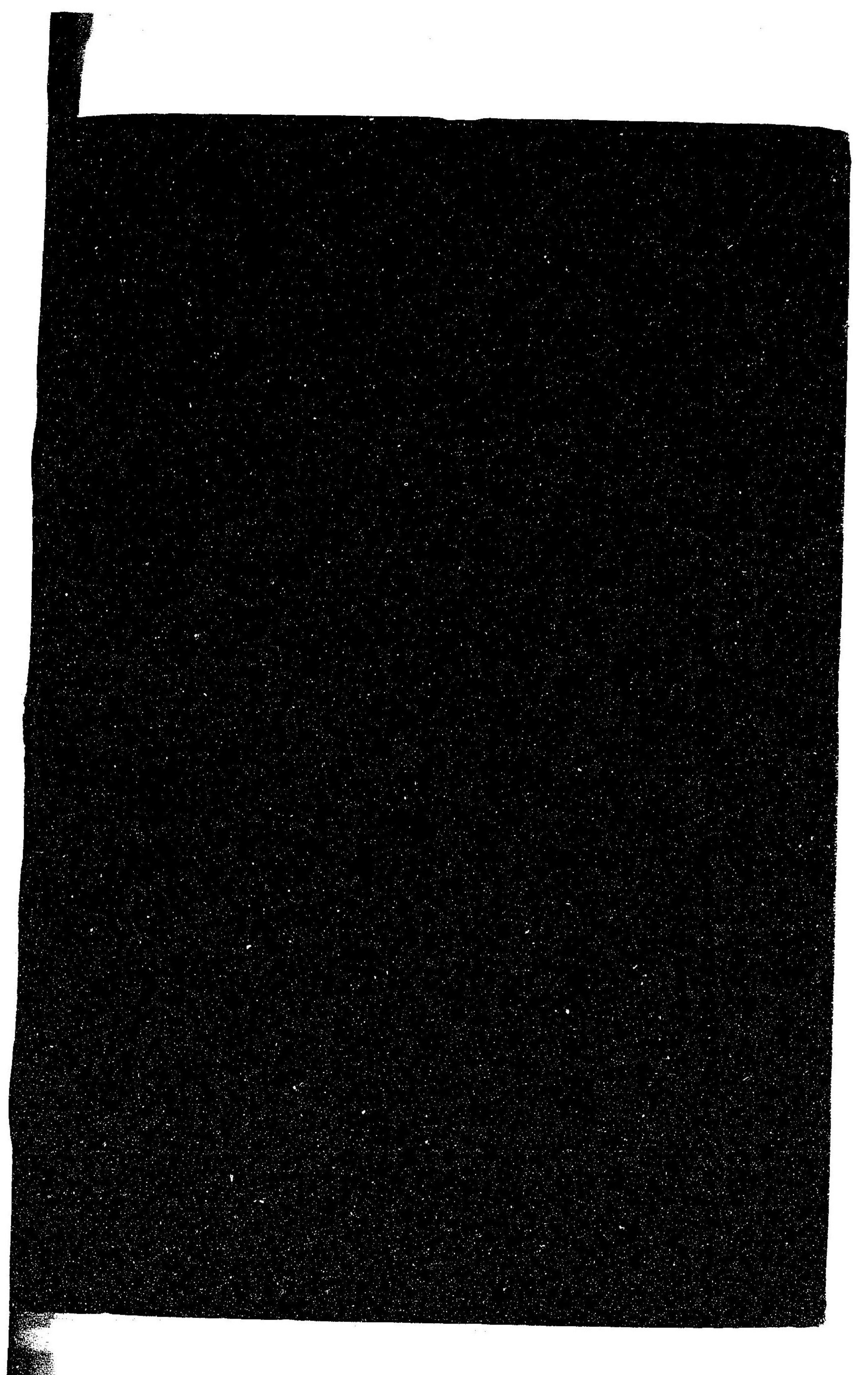
# 警察法典義

西洋綴全一冊正價金四十錢  
郵 稅 八 錢

本書ハ我國警察ノ沿革ヨリ現今行政警察、司法警察ノ取扱手續ヲ平易明瞭ノ句調ヲ以テ釋明シ次ニ巡查、憲兵、警部等警察登用試驗ヲ受クヘキ準備并ニ手續ノ如何ヲ示シ又刑法刑事訴訟法ニ就キ嶄新ナル學理ニ基キ五百有餘ノ問題ニ遂ニ一精確不拔ノ答案ヲ附シ卷尾ニ警察法規ノ正條數百種ヲ網羅シタレバ當該官ハ勿論苟モ警察ニ職ヲ奉セントスルノ志願者ノ爲メニハ座右欠クベカラサルノ一大寶典ナリトス



85
129



85  
129

036615-000-1

85-129

改正民事訴訟法釈義

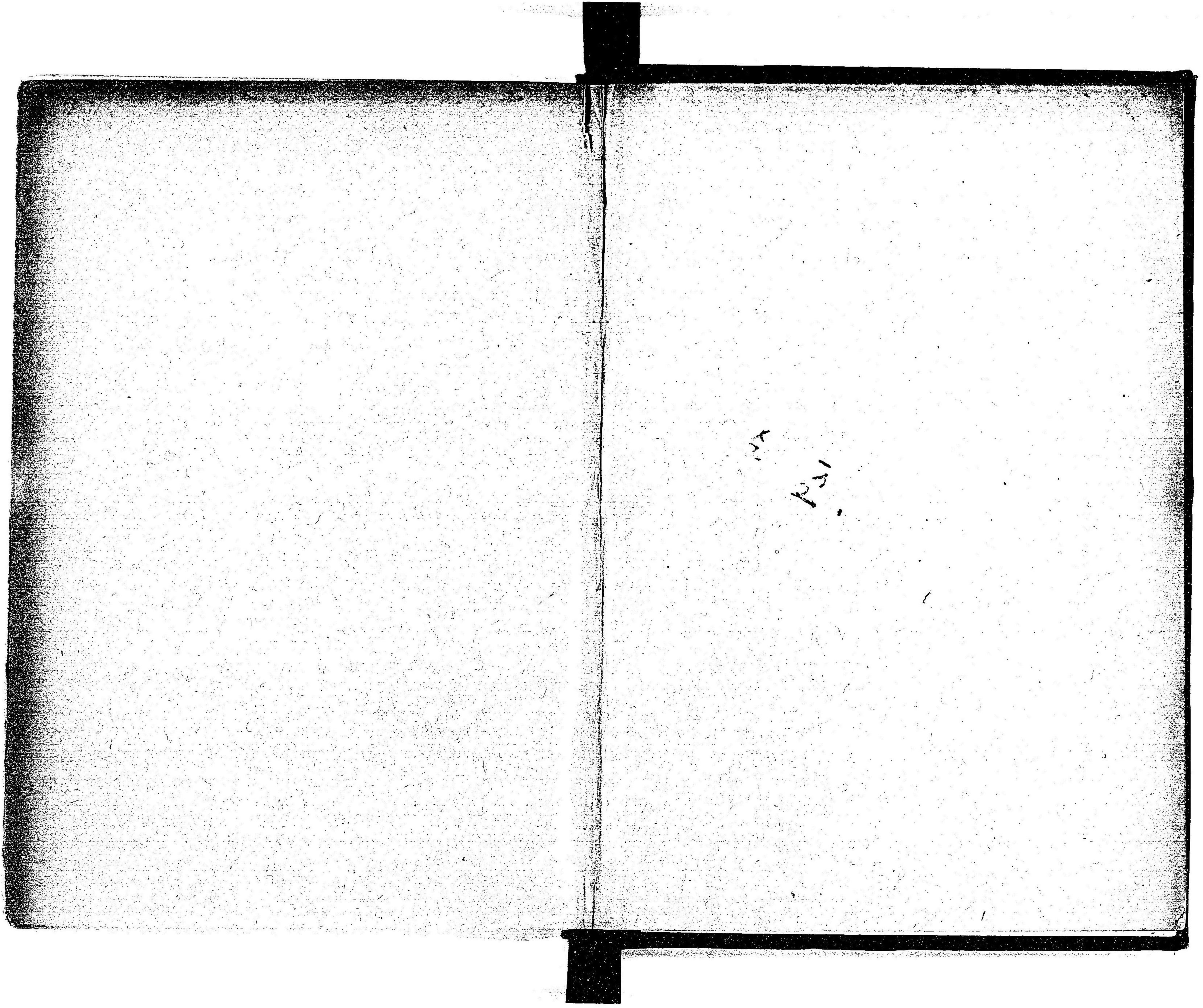
行森 龍太

後藤 本馬 / 著

M33

BBS-0033





151